

2 0 2 3 年 度 事 業 報 告

2023 年度事業概況

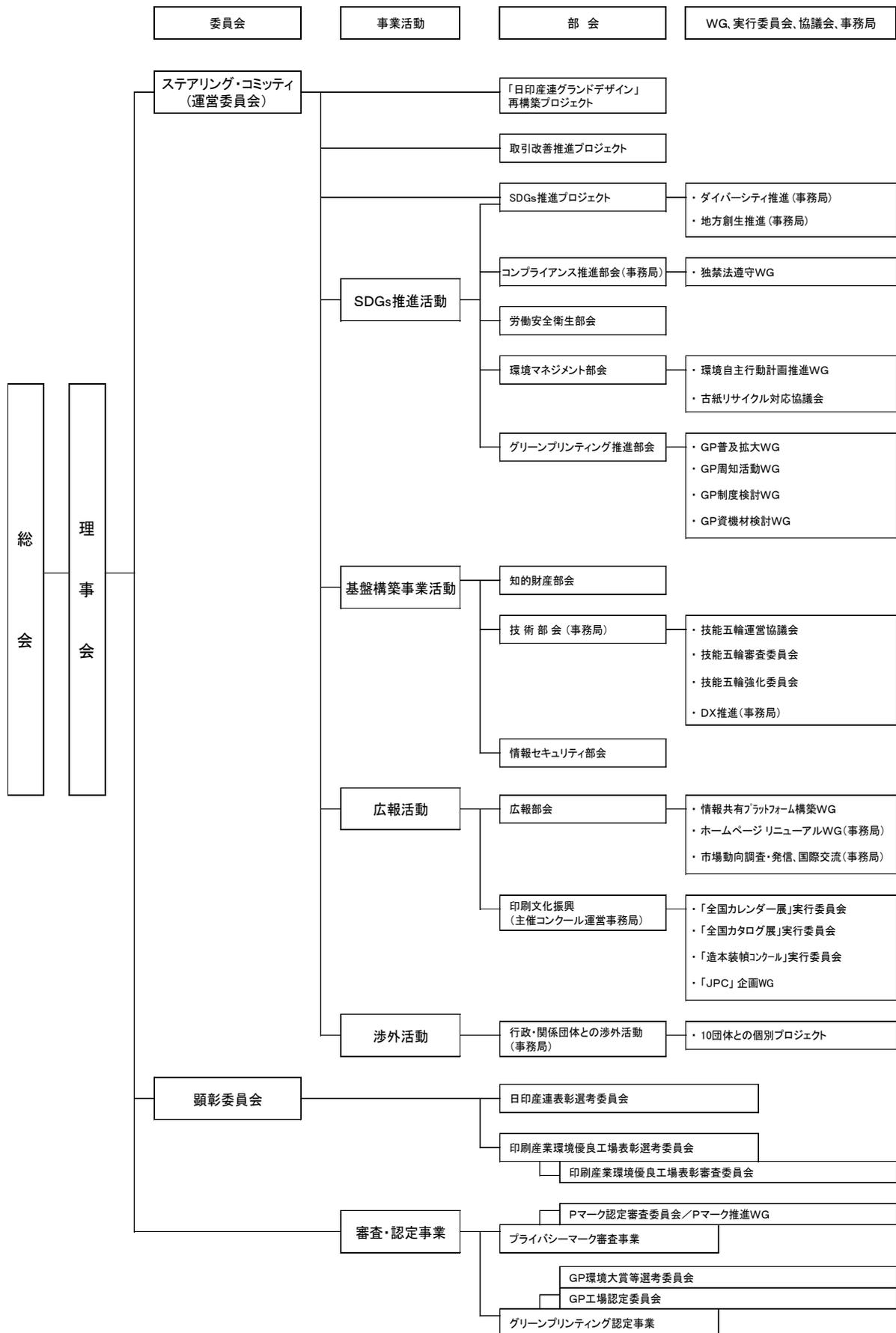
2023 年度は、5 月に新型コロナウイルス感染症法上の分類が「5 類」となったことを受け、行動制限が緩和され個人消費やインバウンド需要が増加するなど、景気の緩やかな回復が見られました。一方で国際的には、地政学リスクがさらに高まるなか、さまざまな価格の上昇や為替変動もあり、先行き不透明な状況が続きました。印刷業界では、紙の印刷需要の減少に加え、用紙・フィルム等の原材料価格やエネルギーコストの上昇など厳しい経営環境が続くなかでも、デジタル技術を活かした働き方や暮らしを変革する「DX」の進展などがありました。

このような社会情勢の中、日印産連は長期的な視点に立って会員 10 団体とともに、「2030 年の印刷産業のあるべき姿」を見据え、新たなグランドデザインの策定に取り組んできました。各 10 団体の課題や要望などのヒアリング、その後産連内部で計 30 回に及ぶ検討会を実施し、12 月には「グランドデザイン 2030」再構築プロジェクトを立ち上げ、「私たちが目指す 2030 年のあるべき産業の姿」と「新たな産業に向けて日印産連が果たすべき役割」を策定。来年度はこれらをベースに従来の印刷を再定義し、業界内外に向けて新しい産業のイメージの構築と発信に努めてまいります。

事業活動の柱となる「SDGs 推進活動」では、コンプライアンス推進部会にて一昨年策定した「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画」について、今年度は 11 月に 2 回目となるフォローアップ調査を実施し、そのとりまとめを中小企業政策審議会取引問題小委員会に調査結果を報告。同様に環境マネジメント部会にて「印刷産業のカーボンニュートラル行動計画」のフォローアップ内容に関しても、12 月に産業構造審議会へ報告しました。「広報活動」としては、コロナにて中止されていた WPCF（世界印刷・コミュニケーションフォーラム）がバンコクで 3 年ぶりにリアル開催され、環境への配慮やデジタル化の対応など、各国共通の課題が認識されました。また 9 月には、4 年に一度の「印刷の月（印刷文化典）」が開催され、従来の印刷功労賞、印刷振興賞に加え、印刷文化賞 3 名も表彰され、4 年ぶりに懇親会が開催されました。

このように各テーマに沿って編成された部会や WG が、2023 年度の事業計画に沿って課題解決に向けた活動を推進しました。さらにプライバシーマーク審査認定事業とグリーンプリンティング認定事業を積極的に展開し、印刷産業の社会的責任の向上に資する活動を継続しました。

2023年度
一般社団法人 日本印刷産業連合会 委員会等運営体制図



I 常設委員会活動 / 顕彰委員会

ステアリング・コミッティを、印刷業界全体に関わる政策や日印産連の活動方針を検討策定する唯一の常設委員会と位置づけ、活動目的を「SDGs 推進活動」「基盤構築事業活動」「広報活動」「渉外活動」に分類、その中に各部会・プロジェクトを置いた。

1 ステアリング・コミッティ（運営委員会）

【1】概要

会員 10 団体の会長及び専務理事を中心メンバーとして、日印産連の各種活動内容の報告や討議、決定を行った。また経産省を初めとする行政各省庁や外部団体と連携し、情報を共有するとともに印刷業界の諸課題を検討した。

委員会での主な議案(決議事項)としては、通常議案となる「事業報告・決算報告」「事業計画・収支予算」「9 月印刷の月・新年交歓会等の主要行事」「日印産連表彰・印刷環境優良工場表彰・GP 環境大賞等表彰」に加えて、日印産連が対応すべき新たな事案として、印刷産業の 2030 年にあるべき姿を策定する「グランドデザイン 2030」構築や、適正な価格転嫁の推進に向けた取組み等が検討された。

2023 年度は、エネルギー価格や原材料費の値上がりに加え、労務費の適切な価格転嫁と下請適正取引の推進が印刷産業としても大きな課題となった。1 月 24 日に開催された第 5 回ステ・コミに経産省コンテンツ産業課目黒課長補佐が出席し、労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針について説明した。また 2023 年度から会員 10 団体の会費（賦課金）を減額し事業活動の運営を見直していく中で、第 2 回ステ・コミ（7 月 26 日開催）にて環境優良工場表彰制度の見直しについて検討した。その結果 2024 年度は中止とし、今後検討を継続することとなった。（委員会名簿 P. 37）

| 委員会名 | 開催回数 | 実施内容 |
|-------------------------|------|---|
| ステアリング・コミッティ (運営委員会) | 6 回 | *2022 年度 事業報告並びに決算報告 *日印産連表彰 / 印刷産業環境優良工場表彰 *GP 環境大賞等表彰 *2024 年度 日印産連 主要行事日程 *2024 年度 事業計画並びに予算収支 |

《本委員会開催日》

| | | | | |
|-------|--------|--------------|-----------|--------------------|
| 第 1 回 | 2023 年 | 5 月 17 日(水) | 13 : 30 ~ | 於:印刷会館 202~203 会議室 |
| 第 2 回 | 2023 年 | 7 月 26 日(水) | 13 : 30 ~ | 於:印刷会館 202~203 会議室 |
| 第 3 回 | 2023 年 | 9 月 25 日(月) | 13 : 30 ~ | 於:印刷会館 202~203 会議室 |
| 第 4 回 | 2023 年 | 11 月 15 日(水) | 13 : 30 ~ | 於:印刷会館 202~203 会議室 |
| 第 5 回 | 2024 年 | 1 月 24 日(水) | 13 : 30 ~ | 於:印刷会館 202~203 会議室 |
| 第 6 回 | 2024 年 | 3 月 13 日(水) | 13 : 30 ~ | 於:印刷会館 202~203 会議室 |

【2】主な実施内容

ステアリング・コミッティにおける「議案・検討事項」および「報告事項」は次の通り。

■ 第1回

議案

1. 2022年度事業報告 並びに決算報告（案）の件
2. 諸規程（日印産連給与規程）の改訂について
3. 2023年度 日印産連表彰（印刷文化典年度）の推薦（案）の件
4. 検討事項
（1）日印産連・グランドデザイン再構築について
5. 報告事項
（1）2023年度4月／10団体会員数動向について
（2）2023年「9月印刷の月・印刷文化典」式次第

■ 第2回

議案

1. 2023年度 日印産連表彰の件（理事会決議事項）
2. 第21回印刷産業環境優良工場表彰の件（理事会決議事項）
3. 2023 GP環境大賞等表彰の件（理事会決議事項）
4. 検討事項
（1）環境優良工場表彰制度の見直し検討について
（2）特定技能1号印刷業種の認定申請に向けた準備・検討の件
（3）「グランドデザイン」再構築について
5. 報告事項
（1）2023年「9月印刷の月・印刷文化典」記念式典・懇親会の件
（2）パートナーシップ構築宣言について
（3）第56回造本装幀コンクール関連
（4）2023GP環境大賞等表彰式／「印刷と私」トークショー開催について
（5）2023年度のSDGs推進プロジェクトの進め方について

■ 第3回

◎一般社団法人 全国銀行協会 上席調査役 前田航希様 ・ 副調査役 武田直之様
「手形・小切手の廃止／電子化について」

議案

1. 第1号議案 2024年度 日印産連／会員10団体主要行事日程（案）の件
2. 第2号議案 2024年度 ステアリング・コミッティ年間日程（案）の件
3. 検討事項
（1）下請適正取引・自主行動計画の見直し及び徹底プラン作成について
（2）日印産連「グランドデザイン」再構築について

報告事項

- （1）「2023年「9月印刷の月・印刷文化典」記念式典・懇親会の件
- （2）GP環境大賞等表彰式／トークショー、及びFM横浜・ラジオ番組提供について

■ 第4回

議案

1. 2024年 日印産連新年交歓会（案）
2. 報告事項
（1）プライバシーマーク審査関連資料の漏えいについて
（2）「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画」フォローアップ調査について
（3）「WPCF（世界印刷会議）2023」タイ・バンコク出張報告会について
（4）日本フォーム工連共催 SDGs・コンプライアンス勉強会について
（5）GP環境大賞等度表彰式・「印刷と私」トークショーについて
（6）「グランドデザイン2030」について

■ 第5回

◎経産省コンテンツ産業課 目黒課長補佐

労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針について

議案

1. 「グランドデザイン 2030」プロジェクト・ヒアリングについて
2. 報告事項
日印産連の環境推進施策について

■ 第6回

議案

1. 「グランドデザイン 2030」について
2. 「2024年度 事業計画並びに収支予算（案）の件

【3】「日印産連グランドデザイン」再構築プロジェクト

1) 概要

2022年に「Change Together」提言実行プロジェクトで検討した結果、2030年に向けて今後進むべき方向を10団体の状況を踏まえて十分に話し合い、引き続きプロジェクトで議論すべきとして、今年度は『日印産連グランドデザイン』再構築プロジェクト」として検討を続けた（部会名簿P.37）。

2) 具体的活動

まず会員10団体の状況を把握するために、2023年2～3月に各団体を訪問し会長・専務理事に「各団体・会員個社の現状と課題」「今後の日印産連へ望むこと」をヒアリングした。その内容を踏まえ、日印産連「グランドデザイン」再構築に向けた活動計画案を作成し第1回ステ・コミ（5月17日）で説明、日印産連内の部長以上の管理職を中心にグランドデザイン再構築に向けて日印産連内で会議を6月8日からスタートさせた。

産連内会議では、「2030年にあるべき印刷産業の姿」の検討から始め、「新たな印刷産業の事業領域とは何か」、「その事業領域に進むためには何が必要か」、「そのために日印産連が果たすべき役割とは何か」、「その役割を実行するための実行計画は」などを話し合い、会議の中間報告を第3回ステ・コミ（9月25日）で行った。ステ・コミでは10団体会長を中心に「あとは示されたこの道に向かって10団体がやっていだけなので、今後細かい議論に入っていくべき」「10団体でコミュニケーションを深めて一つに収れんさせよう」と、進むべき方向性についてはほぼ一致が見られたため、10団体のメンバーからなるプロジェクト会議を発足、12月1日のキックオフミーティングを皮切りに検討を進めた。また「2030年に主役となる若手経営者の意見をもっと盛り込みたい」とのステ・コミ委員の提案を受け、プロジェクト会議に先立ち、印青連の会長や副会長を中心とした「若手経営者会議」を開催（11月2日）、個社や団体の課題・グランドデザインへの提案など意見交換を行った。

プロジェクト会議の結果は都度ステ・コミで検討し、その内容をプロジェクトの会議に反映させた。また、中長期実行計画（アクションプラン）を立案するにあたり、日印産連の2024年度の事業計画も同時に立案するため、日印産連内での会議もプロジェクト会議と並行して継続、3月末までに昨年6月のスタートから合計26回の会議で検討し、「日印産連グランドデザイン2030」として「2030年にあるべき産業の姿」「日印産連が果たすべき役割（ミッション）」を策定した。2024年度では、新プロジェクト「新たな産業の定義プロジェクト」で、「私たちが目指す2030年のあるべき産業の姿」に基づいて、2025年3月までに新たな印刷産業の定義を検討する。

| プロジェクト名 | 開催回数 | 実施内容 |
|-------------------------|------|--|
| 「日印産連グランドデザイン」再構築プロジェクト | 5回 | <ul style="list-style-type: none"> * 会員 10 団体の課題把握 * 「2030 年にあるべき産業の姿」検討 * 新たな産業の呼称検討 * 日印産連が果たすべき役割（ミッション）検討 * 中長期実行計画（アクションプラン）検討 |

《本委員会開催日》

第1回 2023年12月1日(金)13:00～ 於:印刷会館 801 会議室

第2回 (団体別個別会議)

2023年12月13日(水)13:00～ (製本・光沢) 於:全製工連会議室

2023年12月15日(金)10:00～ (全印工連・ジャグラー・GCJ) 於:801 会議室

2023年12月20日(水)11:00～ (グラビア) 於:印刷会館 801 会議室

2023年12月21日(木)10:00～ (工業会・フォーム) 於:801 会議室

2024年1月12日(金)10:00～ (シール・スクリーン) 於:801 会議室

第3回 2024年2月13日(火)10:00～ 於:印刷会館 801 会議室

第4回 2024年2月28日(水)13:00～ 於:印刷会館 801 会議室

第5回 2024年4月10日(水)10:00～ 於:印刷会館 801 会議室

3)日印産連「グランドデザイン 2030」

① 私たちが目指す 2030 年のあるべき産業の姿

私たちは、モノづくりで培った「印刷技術」をコアに、高度デジタル社会に対応した情報加工技術力、幅広い多様なネットワークを活用した課題解決力、柔軟な発想によるイノベーション力、の3つの「チカラ」を集結し、人々の暮らしと文化を支え・創り・繋げ、最適なコミュニケーションをデザインする産業へと生まれ変わります。

■私たちの産業は、

1. コミュニケーションメディアとしての印刷の価値を高めるとともに、未来の多様で高度なデジタル社会における価値創造と課題解決に取り組み、新たな事業領域を切り拓いていきます。
2. 公平公正な競争と商取引によって、そこで働く人々を含めあらゆるステークホルダーにとって魅力あふれる産業となることを目指します。
3. 脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会等に向けた地球環境保全の取り組みにより、豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

② 新たな産業に向けて日印産連が果たすべき役割（ミッション）

1. 新たな産業イメージの構築と業界内外への発信
2. 事業基盤の強化
3. 新ビジネス創出の支援
4. 次世代人材獲得・育成支援
5. 業界内外との連携強化

ランドデザイン中長期実行計画(アクションプラン)

| | 2024年度 | | 2025年度 | 2026年度 | 2027～2029年度 | |
|---|--|---|---|---|---|---|
| | 前半期(4月～9月) | 後半期(10月～3月) | ※設立40周年 新産業のブランディング ・KPI設定 ・メタデータの選定 ・コンテンツ制作～展開 関連省庁との折衝 | | | |
| 新たな産業ビジョンに向けて日印産連が果たすべきミッション 1) 新たな産業イメージの構築と業界内外への発信 ①2030年ビジョン・新たな産業図録の策定 ②産業の再定義 / 産業分類変更推進 ③産業の持つ魅力・可能性等の積極的な情報発信 | 新たな産業の定義策定プロジェクト設立(10団体) ・新たな印刷産業の定義・呼称を検討、決定 ・19月印刷の月などで広報活動 ・統計値の集計方法を「情報共有プラットフォーム」連携で検討 | 後半期(10月～3月) ※9月印刷の月 新産業のブランディング ・KPI設定 ・メタデータの選定 ・コンテンツ制作～展開 関連省庁との折衝 | 日印産連及び10団体のホームページリニューアル ・最優先の刷新 ・リニューアルの目的設定 ・現状サイトの課題分析 ・サイトマップ作成 | ・新デザイン・新コンテンツ制作 ・効果測定 PDCAサイクルをまわす | | |
| | ①健全な金融取引実現のための施策推進 ・業界内外への労務費等の転嫁推進 | パートナーシップ推進プロジェクト設立(10団体) ・健全な金融取引実現のため印刷工業会へ働きかけ ・印刷工業会の業界別部会との連携 | 多くの業界団体と協力・連携し、健全な金融取引実現のための施策を推進(中小企業への取組へも展開) | | | |
| | ②DX推進支援 ・DX(生成AI、クラウド活用など)による業務フロー改革支援 | 日印産連内業務の効率アップ・自動化推進 DX-PLAT、クラウドHDX等の他団体への展開と提 情報セキュリティガイドライン作成 | 情報共有プラットフォームによる情報活用 情報共有プラットフォームによる情報活用 | | | |
| 2) 事業基盤の強化 ①健全な金融取引実現のための施策推進 ・業界内外への労務費等の転嫁推進 ②DX推進支援 ・DX(生成AI、クラウド活用など)による業務フロー改革支援 | 環境政策検討プロジェクト設立(日印産連内→10団体) ・各団体の環境対策現状把握 ・環境意識啓発 | 環境施策の推進 各団体との調査、協議 | グリーンはるかにWG設立(日印産連内→10団体) ・グリーンはるかにWG設立(日印産連内→10団体) ・各団体の環境対策現状把握 ・環境意識啓発 | 環境施策の推進 各団体との調査、協議 | 新グリーン基準リリース GI制度へ反映 | |
| | ③2030年に向けた環境監査員通し強化 ・環境政策・推進施策・制度の策定 | グリーンはるかにWG設立(日印産連内→10団体) ・各団体の環境対策現状把握 ・環境意識啓発 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 2027年 JIPPI SDGs Award 選定 【環境部門表彰】 【働き方・労務部門表彰】 【ソイ部門表彰】 【施設部門表彰】 | |
| | ・GI制度の見直し・再構築 | 日印産連内×外審有識者による JIPPI SDGs Award(仮)設立検討プロジェクトにて、表彰基準、採択者等を検討 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 2027年 JIPPI SDGs Award 選定 【環境部門表彰】 【働き方・労務部門表彰】 【ソイ部門表彰】 【施設部門表彰】 | |
| 3) 新ビジネス創出の支援 ①新産業制度「JFPI SDGs」による新事業領域開拓支援 ・GI大賞、環境優良工場表彰等環境提言表彰制度の統合、新表彰制度に移行 ・新たな表彰制度の策定 ・新たな表彰制度の策定 ・新たな表彰制度の策定 ・新たな表彰制度の策定 | 日印産連内×外審有識者による JIPPI SDGs Award(仮)設立検討プロジェクトにて、表彰基準、採択者等を検討 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 2027年 JIPPI SDGs Award 選定 【環境部門表彰】 【働き方・労務部門表彰】 【ソイ部門表彰】 【施設部門表彰】 | | |
| | ②新ビジネス創出を推進 ・SDGsをキーワードに新たなソリューション、イノベーションを興した事例の共有促進 ・地方衛生・地域活性化好事例の共有促進 | これまでの産連分をまとめた界内作成、産連【地方衛生・地域活性化】部門表彰への応募促進 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【地方衛生・地域活性化部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【地方衛生・地域活性化部門表彰】募集、審査、表彰 | 【地方衛生・地域活性化部門表彰】 事例の顕彰活動の推進、高出 プロモーション | |
| | 4) 次世代人材獲得・育成支援 ・次世代人材獲得と育成のための施策を検討 ・印刷業界の合同採用イベント等の開催 | 人材獲得・育成施策検討プロジェクト設立(日印産連内) ・求める人材要件の調査・整理 ・10団体の育成事業の調査・検討 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | |
| 5) 業界内外との連携強化 ①行政・関係団体への渉外活動、新領域・関連業界団体との連携促進 ②情報共有プラットフォームの構築と活用(会員10団体を起点として) | (3月の開催決定を受け)当年度は関係団体と外国人有識者新制度への対応協議開始 ・海外関係団体との関係強化等検討、協議会へ参加 ・外審教育機関と印刷産業試験院との連携 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | |
| | 10団体と連携した外資系団体等ター ゲット選定 各団体と協力・連携し親密的な行政やクライアント業界への情報発信やロビー活動 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 | 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【環境部門表彰】募集、審査、表彰 ビランディング 産連事務局×外審有識者×10団体代表者 【働き方・ダイバーシティ推進・労安部門表彰】募集、審査、表彰 |

2 SDGs 推進活動

1. SDGs推進プロジェクト

2022年度は、10団体事務局並びに各団体の所属会員企業のSDGsへの取り組みを促進するため日印産連Web上に「SDGsポータルサイト」を開設し、サポートツールとして、「SDGsターゲットマッピングリスト」等の提供を行った。

2023年度は、各団体ごとの事情に即したSDGsの浸透を図るべく、日本グラフィックサービス工業会、並びに日本フォーム印刷工業連合会と連携し、次のような取り組みを行った。

| SDGs | ターゲット | SDGsターゲットと印刷会社の取り組みとの結びつけチェックリスト |
|------|----------------------------|----------------------------------|
| 1 | 貧困をなくそう | ... |
| 2 | 飢餓をゼロに | ... |
| 3 | 健康と長寿を促す | ... |
| 4 | 質の高い教育をみんなに | ... |
| 5 | ジェンダー平等を実現しよう | ... |
| 6 | 水と衛生 | ... |
| 7 | エネルギーをみんなに そしてクリーンに | ... |
| 8 | 働きがい、経済成長、 イノベーションを促す | ... |
| 9 | 産業、イノベーション、 基盤構造物を強靱にする | ... |
| 10 | 人や国、地域、産業間の 格差をなくす | ... |
| 11 | 住み続けられる まちづくりを | ... |
| 12 | 消費の持続可能性を 高めよう | ... |
| 13 | 気候変動に 適応する | ... |
| 14 | 海の豊かさを守ろう | ... |
| 15 | 陸の豊かさを 守ろう | ... |
| 16 | 公正で平和な社会を 築こう | ... |
| 17 | パートナーシップで 目標を達成しよう | ... |

1) 日本グラフィックサービス工業会(ジャグラ)

2023年1月に開催されたジャグラのサステナブル委員会主催のSDGs勉強会において日印産連よりSDGsへの取り組み方について説明を行った。6月にその内容を盛り込んだジャグラ機関誌の記事及び会員各社のSDGsの取り組みに関するアンケートフォームの作成等に協力した。

2) 日本フォーム印刷工業連合会

寺子屋プロジェクトの一環として、2023年10月17日、25日に開催された「印刷業界におけるSDGsの考え方・取り組み方」勉強会において、「SDGsターゲットマッピングリスト」の使い方を中心としてSDGsの捉え方、取り組み方についての講義を行った。

SDGsの取り組み やってますよね!?

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
日本印刷産業連合会 SDGs推進プロジェクト

Copyright by Japan Federation of Printing Industries. All rights reserved.

1.2 こんな取り組みやってませんか? ビジネス

「ビジネス機会の創出、(企業)価値向上」に関わる取り組み事項の例

- 地元地域の信用金庫等の金融業の帳票類に対して、ユニバーサルデザインの視点から改善提案をしている。
ターゲット8.10 国内の金融機関の能力を強化し、すべての人々の銀行取引、保険、および金融サービスへのアクセス拡大を促進する。
- 一般的な印刷物やビジネスフォーム、パッケージ、サイン類やサイネージ等の製作時にUD(ユニバーサルデザイン)に基づいた設計を取り入れている。
ターゲット10.3 差別的な法律、政策、および慣行の撤廃、ならびに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。

Copyright by Japan Federation of Printing Industries. 権利を保留。
一般社団法人 日本印刷産業連合会

2. 地方創生推進 事務局活動

1) 「JFPI REPORT」連載企画「じゃぱにうむレビュー」

2023年度は、地方創生・地域活性化に関わる事業の好事例を日印産連機関誌「JFPI REPORT」に連載する取り組みを継続して行った。

- ・見開きで2ページ分
- ・「JFPI REPORT」4回/年の発行に合わせ、「じゃぱにうむレビュー」と称し2020年10月号より連載
- ・2023年度は、オウンドメディアによる地域製品の販売・販売促進事業や自社制作キャラクターによ

る地域ブランド構築支援事業から土産物店運営まで、印刷の枠を超えた新たな事業に挑戦する印刷会社に焦点を当て、次の4社を掲載した。

「JFPI REPORT」183号(2023年4月発行)

「JFPI REPORT」184号(2023年7月発行)

「JFPI REPORT」185号(2023年10月発行)

「JFPI REPORT」186号(2024年1月発行)

第11回 株式会社タカヨシ(新潟県新潟市)

第12回 株式会社宮崎南印刷(宮崎県宮崎市)

第13回 大平印刷株式会社(京都府京都市)

第14回 株式会社明新社(奈良県奈良市)

・上記の記事を日印産連 Web サイトの「じゃぱにうむ」ページ「事例集」にも掲載



3. コンプライアンス推進部会

| 部会名 (分科会) | 実施内容 |
|--------------|--|
| コンプライアンス推進部会 | <ul style="list-style-type: none"> 「自主行動計画」フォローアップ調査 「独占禁止法のポイント」セミナー 「税制改正要望書」の内容説明と承認 |

コンプライアンス推進部会では、11月に「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画」のフォローアップ調査を実施。印刷10団体に加盟する会員各社に回答を依頼した。中小企業庁主催の「中小企業政策審議会 取引問題小委員会」(2024年3月8日開催)に調査結果(概要)を提出した。(部会名簿P.38)

独禁法WGでは、3月に「コンプライアンス勉強会～独占禁止法について～」をオンラインで3回開催した。(WG名簿P.38)

2023年6月に2024年度の税制改正要望の取りまとめに向け、10団体経由で各会員企業に税制要望等を依頼、会計士のチェックを経て9月12日に経済産業省企業行動課に「2024年度税制改正要望書」を提出した。

1) 「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画」フォローアップ調査の実施

一昨年「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画」を策定した。今年度は11月に2回目となる「自主行動計画のフォローアップ調査」を実施。印刷10団体に加盟する会員各社に回答を依頼した。その回答を取りまとめ、中小企業庁主催の「中小企業政策審議会 取引問題小委員会」（2024年3月8日開催）に調査結果（概要）を提出した。また日印産連HPにも調査結果を掲載した。

2) 独占禁止法問題への対応

3月に独禁法遵守WGメンバーに講師を依頼し、「コンプライアンス勉強会～独占禁止法について～」を印刷10団体に加盟する会員企業限定、オンラインで3回開催した。この勉強会は日本フォーム印刷工業連合会で前年11月に開催されたものを一部編集し、開催した。

3) 経済産業省に「2024年度税制改正要望書」を提出

2023年6月に2024年度の税制改正要望に向けた税制要望等のとりまとめを10団体経由で各会員企業に依頼した。会計士のチェックを経て9月12日に10団体と連名で経済産業省企業行動課に「2024年度税制改正要望書」を提出した。要望事項は、前年からの継続要望が20項目、新規要望が3項目の合計23項目で、法人税実効税率の更なる引き下げ、インボイス制度の柔軟な運用、インボイス制度の対象範囲の見直しなどを要望しました。

4. 労働安全衛生部会

（部会開催：10/19, 3/7、2回開催）

本年度も「労働衛生、化学物質管理」を優先テーマとして取り組み、活動を進めた。化学物質管理に関しては、2023年度より化学物質管理のあり方が、従来の法令で具体的な措置を規定する「法令順守型」から危険性・有害性の評価および災害防止対策を事業者自らが選択する「自律的な管理」に移行され、大幅な規則等の改正が行われたため、労働安全衛生法に基づく「新たな化学物質管理規制について」と題して労働安全衛生セミナーを開催すると共に化学物質の取扱い管理について情報発信を行い、理解の浸透を図った。また印刷業界から排出されるVOC（揮発性有機化合物）の削減並びに職場環境の改善を業界内に浸透させるためのセミナーとして、本年度で第6回目となる「VOC排出抑制セミナー」を開催した。（部会名簿P.39）

| 部会名（分科会） | 開催回数 | 実施内容 |
|----------|------|--|
| 労働安全衛生部会 | 2回 | ・2023年度部会活動計画 ・VOC排出抑制セミナー ・労働安全衛生セミナー 労働安全衛生法に基づく新たな化学物質管理規制について |

1) 定例部会の開催

定例部会の開催は、2023年度も新型コロナウイルス感染防止のため、すべてリモート開催とした。

■第1回部会（10/19）

- ①2023年度 労働安全衛生部会 活動計画
- ②新たな化学物質規制について（セミナー内容確認）
- ③その他

- ・2023年度 VOC 排出抑制セミナーについて

■第2回部会（3/7）

- ①2023年度 労働安全衛生部会 活動報告
- ②2024年度 労働安全衛生部会 活動計画（案）
- ③その他報告事項

- ・令和6年度緑十字賞募集について



2023年度 VOC 排出抑制セミナーの様子

2) 労働安全衛生活動

(1) VOC 排出抑制セミナーの開催

本年度は11月16日（木）に経済産業省 関東経済産業局と日本印刷産業連合会の共催で「VOC 排出抑制セミナー」を開催した。本セミナーは印刷業界から排出される VOC（揮発性有機化合物）の削減並びに職場環境の改善を業界内に浸透させるため、2018年より毎年開催しており今年で6回目となる。今年度は3年振りにリアルにて開催し、印刷業界に関連した以下4テーマを講演いただき、印刷業界の関係者を中心に64名の参加者を得た。



開催日時：2023年11月16日（木）13:30～16:30

場 所：日本印刷会館2階会議室

講演内容・講師：

- ①「VOC 排出抑制に向けた印刷業界の取組み」
日印産連 環境マネジメント部会 菅藤 純平 氏
- ②「印刷インキにおける低 VOC 化およびノン VOC 化の動向」
印刷インキ工業会（サカタインクス（株）） 山内 雅文 氏
- ③「東京都の VOC 排出抑制の取組み」
東京都環境局 環境改善部化学物質対策課 丸島 亮太 氏
- ④「印刷工場における SDGs/ESG への実践的対応」
（一社）エコステージ協会 全国理事 深山 雄一郎 氏

(2) 労働安全衛生セミナーの開催

本年2月9日（金）に日印産連主催の労働安全衛生セミナーを開催した。本セミナーは、2023年4月から施行された労働安全衛生法の改正において、事業者が主体的に化学物質管理を行うことを求める法令改正となっており、化学物質を取り扱う印刷事業者は早急な対応が必要になることから、この新たな化学物質管理規制の概要及び労働安全衛生法の改正内容と対策をわかりやすく解説するセミナー

とした。参加者は経営者をはじめ工場長、作業環境管理担当者など、総勢 229 名の参加を得た。

開催日時：2024 年 2 月 9 日（金）15:00～17:00

場 所：オンライン開催

講演内容・講師：

○労働安全衛生法に基づく「新たな化学物質管理規制について」

テクノヒル(株)化学物質管理部門 テクニカルディレクター 井上 晋一 氏

・新たな化学物質規制の概要と法令改正の要点

・リスクアセスメントの方法について（CREATE-SIMPLE の使い方）

セミナー開催後にセミナー参加者に講演内容の理解度や要望等をアンケート調査した結果、107 名（回答率 47%）の方から回答を得た。

アンケート結果として、セミナーの内容を「理解できた」「ほぼ理解できた」が 90%を超え、資料や講師の説明も「わかりやすい」との回答が 80%を超える結果となり、総じて好評であった。

（3）中央労働災害防止協会 緑十字賞

中災防は毎年「長年にわたり産業安全や労働衛生の推進向上に尽力し、顕著な功績が認められた個人およびグループ」に対して緑十字賞を贈り表彰しているが、2023 度は応募が無かった。来年度の募集が開始されたので、10 団体事務局を通して応募を募る。

5. 環境マネジメント部会

（部会開催：2023. 7/7, 2024. 2/29、2 回開催）

印刷産業が取り組むべき SDGs の重要課題として、地球環境に配慮した活動を 2023 年度も継続して実施した。カーボンニュートラル行動計画、循環型社会形成自主行動計画、VOC 排出抑制自主行動計画の 3 つの自主行動計画について、会員企業へのアンケート調査を通じて取り組み状況を把握し、フォローアップ調査票として経済産業省並びに経団連に提出した。また今年度の「印刷産業のカーボンニュートラル行動計画」フォローアップ結果について 12 月に開催された産業構造審議会（産業技術環境分科会 地球環境小委員会 製紙・板硝子・セメント等WG）にて報告した。

古紙リサイクル対応協議会傘下の脱墨分科会で行ってきた印刷古紙のリサイクル評価方法（JFPI 法）の JIS 化検討については、JIS 化のメリットが少ないとの結論に至り脱墨分科会を閉会とした。これに伴い古紙リサイクル対応協議会についても休会とする。（部会名簿 P. 39）

| 部会・WG名 | 開催回数 | 実施内容 |
|-------------------------|----------|---|
| 環境マネジメント部会 | 2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度環境マネジメント部会の活動方針事業計画策定 ・2023年度の各WG活動実績の確認 ・2024年度環境マネジメント部会 事業計画（案）策定 |
| ■環境自主行動計画推進WG | 4回 | <ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラル、循環型社会形成、VOC排出抑制自主行動計画の2022年度実績フォローアップ調査票作成し提出 |
| ■古紙リサイクル対応協議会 ・脱墨分科会 | 0回 1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル評価方法（JFPI法）のIJS化継続の可否検討し中止と決定 |
| ■CLOMA対応 | — | <ul style="list-style-type: none"> ・海洋プラスチックごみ問題に関する情報収集および部会委員に情報共有 |

1) 定例部会の開催

定例部会の開催は、2023年度も新型コロナウイルス感染防止のため、すべてリモート開催とした。

■第1回部会（7/7）

- ①環境マネジメント部会 事業計画
- ②ワーキンググループの活動方針
 - ・環境自主行動計画推進WG
- ③2023年度環境自主行動計画アンケート
 - ・カーボンニュートラル行動計画／循環型社会形成自主行動計画
 - ・VOC排出抑制自主行動計画
- ④2023年度カーボンニュートラル行動計画調査票の見直し案
- ⑤自主行動計画スケジュール 他

■第2回部会（2/29）

- ①2023年度 環境マネジメント部会 活動報告
- ②2024年度 環境マネジメント部会 事業計画（案）

2) 環境自主行動計画推進ワーキンググループ

（2023.6/27, 9/1, 10/11, 2024.2/1、計4回開催）

（1）カーボンニュートラル行動計画（地球温暖化対策）

カーボンニュートラル行動計画は、2021年度から2030年CO₂削減目標に向けての活動であるフェーズⅡに移行した。今年度もカーボンニュートラル行動計画の実行性を高めるとともに、2030年目標に向けての進捗状況を確認するため、2022年度実績について、行動計画参加企業の実績収集および評価・検証を行った。本年度の本計画への参加企業については、各団体の協力により前年の127社から133社へと4.7%増加し、カバー率も1.9%から2.1%と増加した。

①2022年度実績フォローアップ結果

日印産連としては、カーボンニュートラル行動計画の指標として2030年度のCO₂排出量削減目標を基準年度である2013年度のCO₂排出量143.7万t-CO₂から54.8%削減し65.0万t-CO₂とすることを目標としている。2022年度実績は39.7%削減、86.7万t-CO₂となり、目標達成の進捗率*は72.4%となった。またCO₂の発生量を原単位（発生量/売上高…単位：t-CO₂/億円）でみると、基準年度47.7t-CO₂/億円、2030年度の目標20.3t-CO₂/億円以下に対して、2022年度実績は27.0t-CO₂/億円であり進捗率*は75.5%となった。2022年度の見通し値としては、CO₂排出量は93.4万t-CO₂、CO₂原単位は29.2t-CO₂/億円であり、目標年度2030年度に対する進捗率はそれぞれ63.9%、67.5%となるため、2022年度実績の進捗率はいずれも見通し進捗率を上回っている。

また、従来の固定排出係数を使用した2030年度目標としては2010年度を基準年度としてCO₂排出量107.8万t-CO₂から30.1%削減し75.4万t-CO₂とすることを目標としており、この目標に対しては、2022年度実績は35.6%削減、72.3万t-CO₂となり2030年目標を達成している。要因としては、生産活動量は新型コロナウイルス前の状況にもどりつつあり（生産活動量前年比3.7%増、2019年比1.3%増）設備稼働率の向上が見込まれるが、エネルギー消費量（前年比▲3.9%）が低減していることから、生産設備および空調関係の高効率化など事業者の省エネ努力分が大きく寄与していると考えられる。

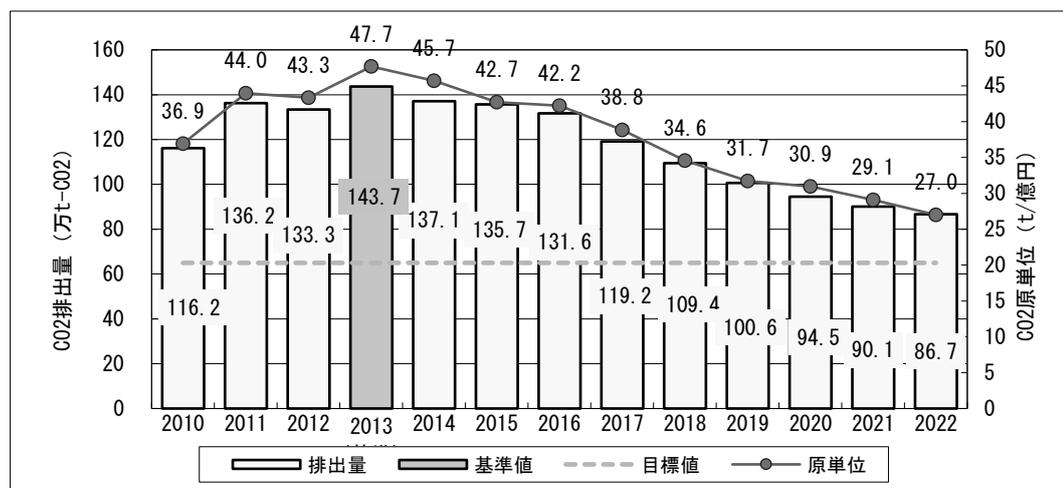
※：進捗率【基準年度目標】＝（基準年度の実績水準－当年度の実績水準）
 ／（基準年度の実績水準－2030年度の目標水準）

●CO₂排出量・原単位（変動係数）

<2022年度の実績値>変動係数（経産省指定係数：電力排出係数調整後/受電端）

- ・CO₂排出量（単位：万t-CO₂ 電力排出係数：0.436kg-CO₂/kWh）：86.7
 （基準年度比▲39.7%、2021年度比▲3.8%）
- ・CO₂原単位（単位：t-CO₂/億円 電力排出係数：0.436kg-CO₂/kWh）：27.0
 （基準年度比▲43.4%、2021年度比▲7.2%）

<CO₂排出量・原単位のトレンド>

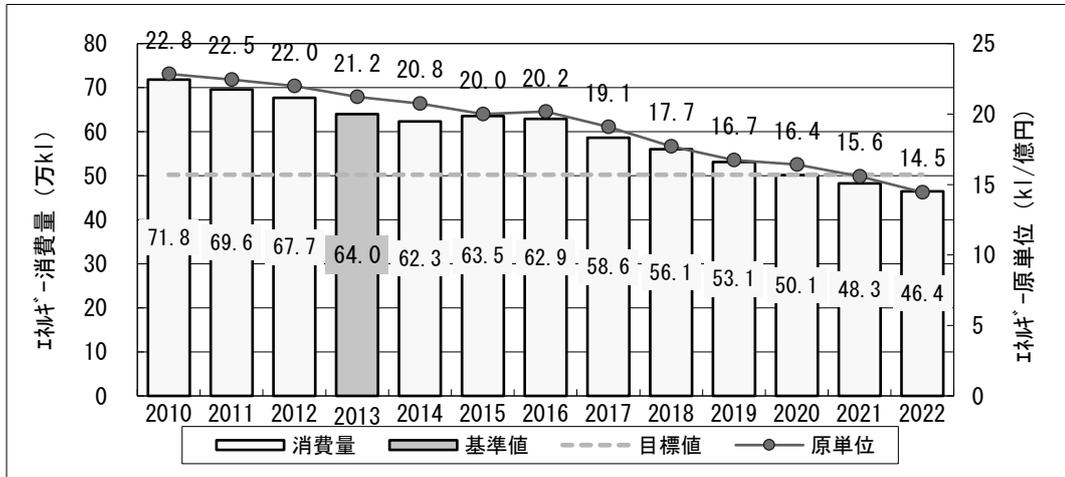


●エネルギー消費量・原単位（変動係数）

<2022年度の実績値>変動係数（経産省指定係数：電力排出係数調整後/受電端）

- ・エネルギー消費量（単位：万 kL）：46.4（基準年度比▲27.5%、2021 年度比▲3.9%）
- ・エネルギー原単位（単位：kL/億円）：14.5（基準年度比▲31.6%、2021 年度比▲7.1%）

<エネルギー消費量・原単位のトレンド>

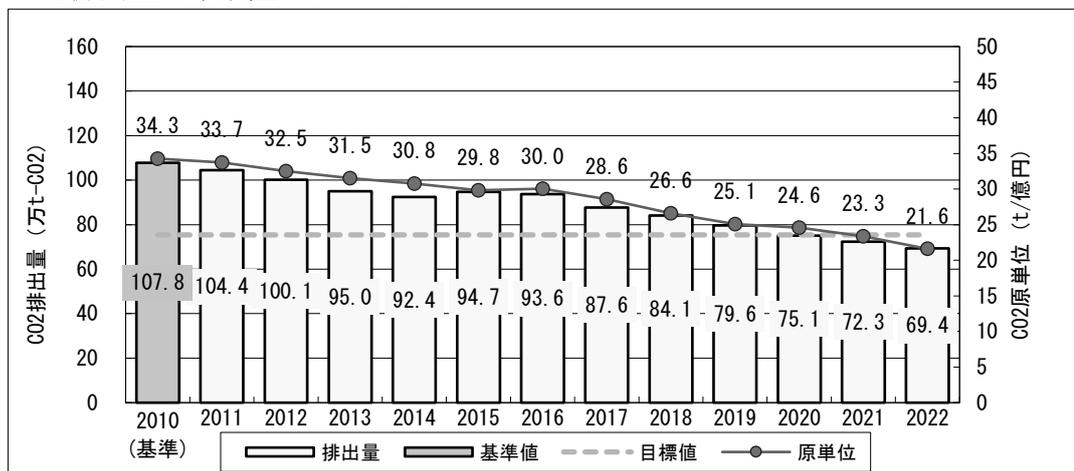


●CO₂排出量・原単位（固定係数）

<2022 年度の実績値> 固定係数（2010 年度発熱量・排出係数：電力排出係数調整後/発電端）

- ・CO₂排出量（単位：万 t-CO₂ 電力排出係数：0.316kg-CO₂/kWh）：69.4（基準年度比▲35.6%、2021 年度比▲4.0%）
- ・CO₂原単位（単位：t-CO₂/億円 電力排出係数：0.316kg-CO₂/kWh）：21.6（基準年度比▲37.0%、2021 年度比▲7.3%）

<CO₂排出量・原単位のトレンド>



②産構審報告結果

12/20（水）に開催された「産業構造審議会 WG（8 業界対象）」で印刷業界の 2022 年度フォローアップ結果について報告した。全体的には WG8 業種の各団体とも CO₂削減目標に対して成果を出しており、出席した委員からは活動への謝意と更なる活動促進を期待する意見が多かった。

(2) 循環型社会形成自主行動計画(産業廃棄物排出量削減)

本計画は循環型社会の形成に向けた経済界の主体的な取組みを推進するため、業種ごとの数値目標や目標達成のための具体的対策等を盛り込んだ自主行動計画を策定し毎年度フォローアップ調査を行うものである。

2025年度の目標指標として、以下の産業界共通①の目標および業界別の目標②③を設定して活動を推進している。

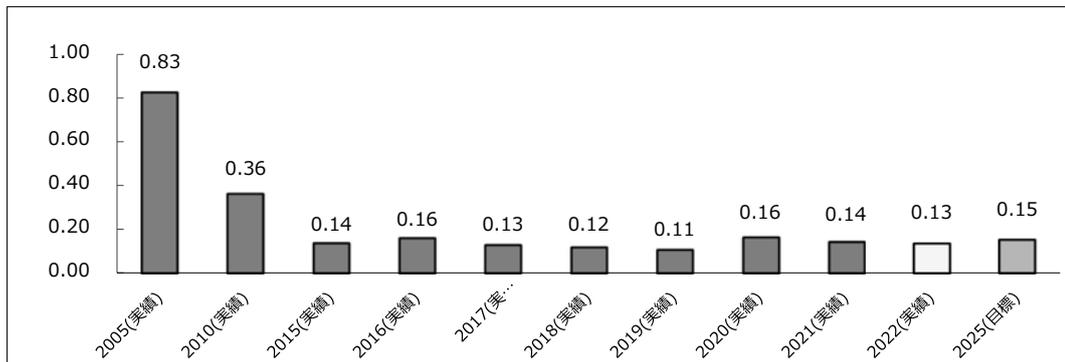
①産業廃棄物最終処分量削減：0.15万t以下

②再資源化率：97.9%以上

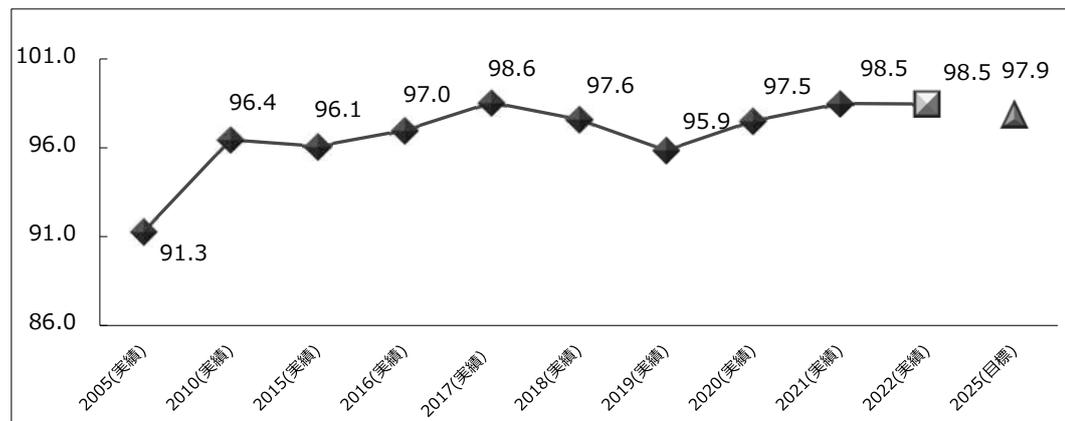
③廃プラスチック最終処分率：2019年度の実績である0.7%以下を維持

2022年度実績として「産業廃棄物最終処分量」については、年間0.13万tとなり目標を達成した。「再資源化率」については、前年と同一の98.5%と目標を達成した。また、「廃プラスチック最終処分率」については、前年の0.8%から0.1ポイント改善し0.7%となり目標を達成した。目標達成の要因としては、印刷業界独自のグリーン基準の一つである資源循環（持続可能な資源利用、長期使用、リユース、リサイクル、処分処理の容易性）の基準達成に向けて、その履行等を積極的に推進したことが挙げられる。

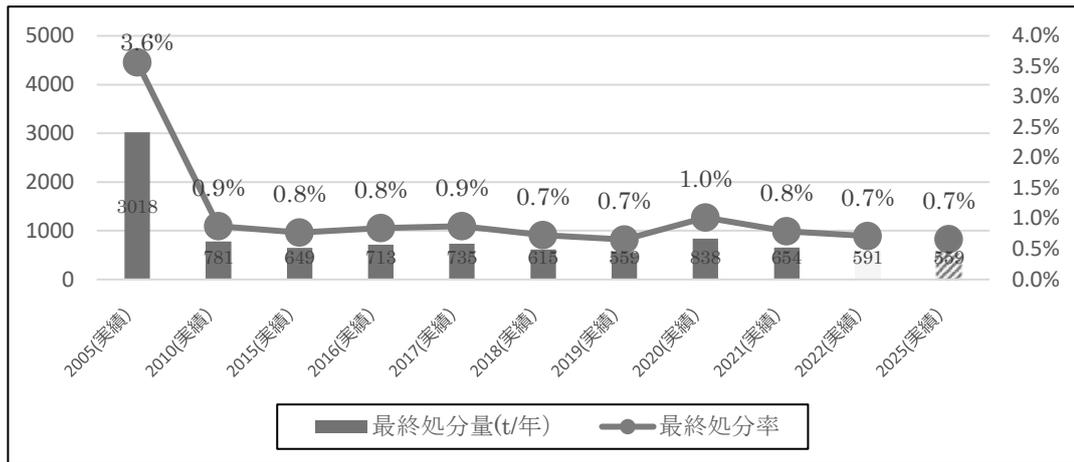
●産業廃棄物最終処分量（単位：万トン）



●産業廃棄物再資源化率（単位：%）



●廃プラスチック 最終処分量（t/年）、最終処分率（%）



(3) VOC排出抑制自主行動計画（大気汚染防止）

VOC排出量抑制については当初2000年度を基準年とし、2010年度における排出量を基準年比41%削減（削減量47,400t）を目標としていたが、2010年度の排出削減率が産業界の実績56%を上回る63%、削減量は72,800tとなり目標を大きく達成した。その後2010年度の排出量42,700t、基準年度比削減率63%を維持目標としており、2022年度実績は排出量22,200t、削減量93,300t、削減率81%となり、目標達成を継続している。また、VOC排出率（排出量／使用量…単位：%）でみると、2010年度24%に対し2022年度実績は18%となり、排出率でも2010年度実績の排出率を下回り目標を達成している。

今後の活動目標としては、「5年後も直近5年間の平均削減率（80%以上）を維持するように取り組んでいく。」とし、活動を進める。

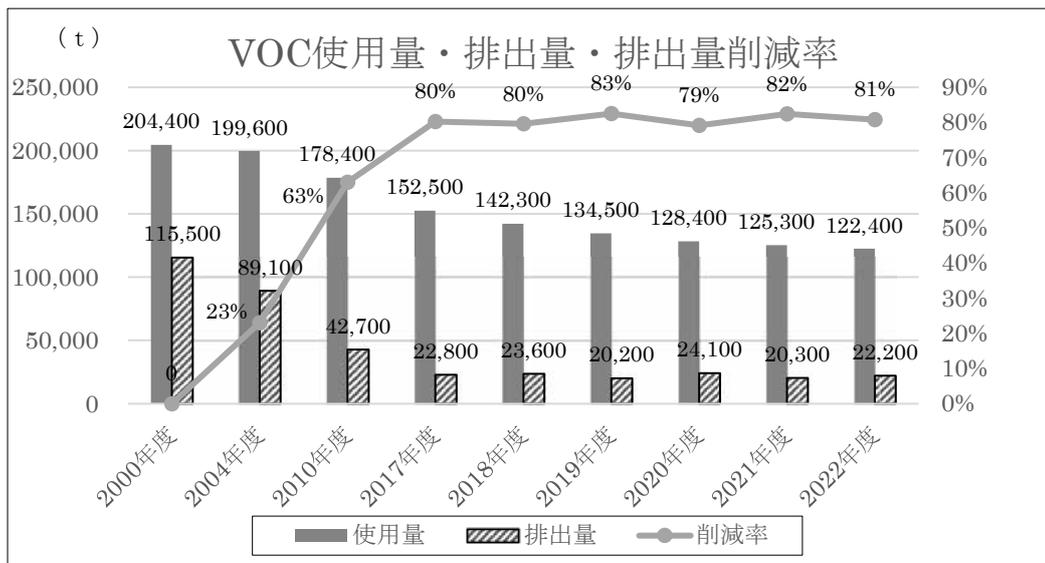
●VOC使用量、排出量実績（単位：トン／年）

| 年度 | 2000年度 | 2004年度 | 2010年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 使用量 | 204,400 | 199,600 | 178,400 | 152,500 | 142,300 | 134,500 | 128,300 | 125,300 | 122,400 |
| 排出量 | 115,500 | 89,100 | 42,700 | 22,800 | 23,600 | 20,200 | 24,100 | 20,400 | 22,200 |
| 削減率 | — | 23% | 63% | 80% | 80% | 83% | 79% | 82% | 81% |
| 削減量 | — | 26,400 | 72,800 | 92,700 | 91,900 | 95,300 | 91,400 | 95,100 | 93,300 |
| 排出率 | — | 45% | 24% | 15% | 17% | 15% | 19% | 16% | 18% |

※削減率、削減量は、基準年度である2000年度比 排出率＝排出量／使用量×100%

<VOC 使用量・排出量のトレンド>

単位：トン/年



3) 古紙リサイクル対応協議会

(1) 脱墨分科会の活動 (7/13、計 1 回開催)

「古紙の脱墨性評価」の ISO 化について、EU 方式 (インゲデ法) が採用され登録されたことにより、JFPI 法の ISO 化は難しいとの判断がなされた。よって、これに伴う JIS 化についての必要性、メリットが薄れたため、日本製紙連合会、古紙再生促進センター、日印産連および分科会メンバーの合意により本分科会を閉会することとした。

(2) 本協議会の取扱いについて

平成 13 年 (2001 年) から本協議会の前身である環境対応協議会のもと「リサイクル対応型紙製商品開発促進対策調査事業」を実施し、平成 18 年に古紙リサイクル適性ランクリスト規格の制定を行った。その後、古紙リサイクル対応協議会と改称しランクリスト規格の改定を平成 21 年 (2009 年)、平成 26 年 (2014 年) に行なってきたが、以降現在に至るまで協議会の開催はされず、協議会の傘下に置いた脱墨分科会も本年度を以って閉会としたため、協議会の活動もこれを以って休会とする。ただし、古紙リサイクル、ランクリスト等について疑義が発生した場合など、協議会が必要になった場合は適時開催する。

4) その他

(1) CLOMA 対応

「CLOMA (クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)」の事務局よりほぼ毎週配信される CLOMA 通信を環境マネジメント部会メンバーに転送し、CLOMA の活動内容の情報共有を図った。

6. グリーンプリンティング推進部会

GP 認定制度では、GP 認定制度を広く周知するため、GP マークを多く活用している印刷発注者（クライアント）を表彰する「GP 環境大賞」、GP マークを多く表示した GP 工場を表彰する「GP マーク普及大賞」、GP 資機材認定製品を多く登録しているメーカーを表彰する「GP 資機材環境大賞」の表彰を実施した。また、小山薫堂 GP 認定制度 PR 大使と（株）グラフィック社「デザインのひきだし」編集長 津田淳子氏によるトークショーを開催した。（部会名簿 p.40）

| 部会名（分科会） | 開催回数 | 実施内容 |
|---------------------|------|---|
| グリーンプリンティング 推進部会 | 5回 | ・GP 認定制度の改善、推進 |
| ■GP 周知活動 WG | 9回 | ・GP 認定制度の業界内外への周知 |
| ■GP 制度検討 WG | 5回 | ・GP 認定取得効果の明確化のための環境パフォーマンスデータの取得方法を中心とした制度検討 |
| ■GP 普及拡大 WG | 2回 | ・GP 認定取得工場の拡大、GP マーク表示の普及 |
| ■GP 資機材検討 WG | 9回 | ・労働安全衛生法変更に伴う認定で基準の変更 |

グリーンプリンティング推進部会の活動

（5/26,7/10,10/30,11/26,2/19 計5回開催[第4回は書面開催]）

本年度は、GP 周知活動ワーキンググループ、GP 制度検討ワーキンググループ、GP 普及拡大ワーキンググループの3つのワーキンググループに加え、資機材メーカーの担当者を中心に構成された GP 資機材検討ワーキンググループも再開し、GP 認定制度の推進に向けた活動を展開した(各 WG の活動については、以下の項参照)。

■GP 周知活動ワーキンググループ

（4/11,5/30,6/29,8/3,9/19,10/26,12/21,2/8,3/11 計9回開催）

1) GP 環境大賞、GP マーク普及大賞、GP 資機材環境大賞の選考・表彰実施

GP マーク及び GP 認定制度を広く周知するため、GP マークを多く活用しているユーザーを表彰する GP 環境大賞、受注印刷製品に GP マークを多く表示した GP 認定事業者を表彰する GP マーク普及大賞、GP 資機材認定製品を多く登録しているメーカーを表彰する GP 資機材環境大賞の選考・表彰を実施した。本 WG での検討を経て、GP 推進部会で賞候補を推薦し、GP 環境大賞等選考委員会で選考した。また、2023 年度の GP 環境大賞等実施要領については、GP マーク普及大賞にもゴールドプライズを新設することとした。なお、表彰式は、10月18日、大日本印刷㈱の DNP 佐内町ビル・ホールで行われた。

受賞者は次のとおり。

【GP 環境大賞】

○2023GP 環境大賞ゴールドプライズ（本年度は該当なし）

[過去受賞企業・団体]

NTT タウンページ株式会社、大阪商工信用金庫、株式会社タカラトミー、東京都

<一般印刷の部>

○2023GP 環境大賞 (3 社)

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、東武鉄道株式会社、日本航空株式会社

○2023GP 環境準大賞 (5 社・団体)

社会福祉法人恩賜財団済生会、株式会社ジェイアール東日本企画、全国間税会総連
合会、株式会社ポスティングセンター沖縄、HOYA 株式会社 アイケアカンパニー

<パッケージ印刷の部>

○2023GP 環境大賞 (1 社)

株式会社あわしま堂

○2023GP 環境準大賞 (2 社)

国分グループ本社株式会社、竹下製菓株式会社

○2023GP 環境大賞特別賞 (1 社)

プレミアムアンチエイジング株式会社

【GP マーク普及大賞】

○2023GP マーク普及大賞ゴールドプライズ (2 社)

NTT 印刷株式会社、六三印刷株式会社

<オフセット印刷部門>

○2023GP マーク普及大賞 (3 社)

株式会社笠間製本印刷、株式会社文伸、丸正印刷株式会社

○2023GP マーク普及準大賞 (6 社)

あさひ高速印刷株式会社、伊藤印刷株式会社、岩岡印刷工業株式会社、
株式会社大川印刷、精英堂印刷株式会社、株式会社太陽堂印刷所

<グラビア・シール・スクリーン印刷部門>

○2023GP マーク普及大賞 (1 社)

株式会社北四国グラビア印刷

○2023GP マーク普及準大賞 (1 社)

株式会社巧芸社

<製本・表面加工部門>

○2023GP マーク普及大賞 (1 社)

TAD クロスメディア株式会社

○2023GP マーク普及大賞特別賞 (本年度は該当なし)

【GP 資機材環境大賞】

<資材部門>

○2023GP 資機材環境大賞 (1 社)

ウエノ株式会社

<機材部門>

○2023GP 資機材環境大賞 (1 社)

富士フイルム株式会社

※過去同部門の受賞メーカーは選考の対象になっていません。

本表彰を通じてSDGsの目標である「つくる責任使う責任」の実現に寄与する印刷製品への環境配慮が促進され、GP認定制度・GPマークの認知度が一層向上するものと期待しています。なお、今回の結果は日印産連のホームページをはじめ、さまざまな機会に広報してまいります。



GP 環境大賞・準大賞受賞者

受賞者の挨拶は、日印産連ホームページにて公開中。

2) 「印刷と私」トークショーの開催他、周知活動イベント

GP 環境大賞等表彰式に引き続き、今回で7回目となる「印刷と私」トークショーを開催した。今年度は小山薫堂 PR 大使を活用した施策として GP 環境大賞等表彰式、「印刷と私」トークショーの企画を行った。また、新規施策として、小山薫堂 PR 大使が DJ を務めている FM ヨコハマのラジオ番組「FUTURESCAPE」に GP 紹介コーナーの提供を行った。WG としての開催は次回3月11日も含めて9回実施。

・GP 環境大賞等表彰式「印刷と私」トークショー

日時：2023年10月18日（水）

場所：DNP 左内町ビル・ホール

トークショーゲスト：津田淳子氏(グラフィック社・取締役、「デザインのひきだし」編集長) 参加者数：166名

※「本と活字館」で開催された「宇野亜喜良 万華鏡印刷花絮 Aquirax Uno Kaleidoscope -Behind the Scene-」(前期)で展示した作品の一部「デザインのひきだし」既刊本のうちから代表的なものを展示



※初の試みとして「FUTURESCAPE」リスナー、「デザインのひきだし」読者をトークショーに招待。それぞれの参加者は31名、14名

- ・GP 環境大賞等実施要領改定
GP マーク普及大賞ゴールドプライズ，特別賞の新設。
- ・ラジオ番組「FUTURESCAPE」GP 紹介コーナーの提供

放送日：2023年9月2日、9日、16日、23日、30日(土) 9時35分～約10分間

トークゲスト：津田淳子氏，菅野潔氏(GP 推進部会・部会長)、川井昌太氏(印刷博物館)，國友俊輔氏(日本航空)

※グリーンプリンティング PR 大使の肩書付き番組オリジナル名刺のリスナー・プレゼント(約30名)

※共同通信 PR ワイヤーへの情報発信を行った他，OVO からの転載の形で YAHOO! ニュース、goo ニュース、BIGLOBE ニュース等のニュースサイト及び業界紙で紹介

- ・ラジオ番組「おもいやりマンスリー」に協力

放送日：2023年9月25日 14時15分～約5分間(生放送)

収録場所：日本印刷会館 8F 応接室

出演者：菅野潔氏(GP 推進部会・部会長)，坂本知美氏(GP 認定事務局)

SDGs 採択日に合わせた特別番組。FM ヨコハマからの依頼で GP 制度について紹介。

※共同通信 PR ワイヤーへの情報発信を行った他，業界紙で紹介

トークショーの様子は約30分間にまとめられ、GP ホームページ、YouTube にて公開した。

■GP 制度検討ワーキンググループ

(7/3,8/24,11/6,1/11,3/26 計5回開催)

本 WG は GP 認定取得効果を明確化するための具体策について検討する目的で 2021 年に再開し、効果を明確化するためには環境パフォーマンスデータを収集できる仕組みの導入と認定に係る規程類の整備が必要との結論から 2023 年度は「GP 制度検討 WG」と改称して活動を行った。WG としての開催は次回 3 月 26 日も含めて 5 回実施。

- ・環境パフォーマンスデータの収集

収集する項目を電気使用量、廃棄物排出量、環境配慮製品製造量とし認定工場に記入してもらおうフォーマットを決定した。運用は2024年4月から行う予定。

・ 規程類の整備

GP 認定制度の根幹をなす「グリーンプリンティング工場認定規程」について条文ごとに詳細な議論を行った結果、最終改定案を精査中。次回最終案合意の上、2024年度にGP推進部会、ステコミでの承認を得る予定。

■GP 普及拡大ワーキンググループ

(5/16,2/15 計2回開催)

具体的に施策として(a)GP 応援団(仮称)、(b)自治体向け施策、(c)大阪万博向けの施策、(d)SDGs 訴求ツール作成、(e)大手企業の営業向け施策を立案し、役割分担して活動を行い、以下の実績が得られた。

(a) GP 応援団(仮称)

GP のホームページ内に環境大賞等受賞企業を紹介するページを開設。
現在、18社・団体を掲載済み。

(b) 自治体向け施策

東京23区、関東甲信の自治体についてマネジメントシステム認証取得補助金制度の有無、GP認定が対象に含まれるかどうかを調査、東京都においては練馬区、長野県塩尻市がGP認定取得に補助を行っていることが判明。その後、全印工連加盟の県工組に依頼して地方自治体の調査を進めているが新たな情報はなし。

(c) 大阪・関西万博向けの施策

「共創チャレンジ」に「すべての印刷物をグリーンプリンティングに」というテーマで登録。GPと親和性のあるテーマとのコラボレーションを模索中。また、「共創チャレンジ」のイベント告知機能を利用してGP概要説明会の開催情報を定期的に発信したがこのページからの申し込みはなし。

(d) SDGs 訴求ツール作成

印刷会社の営業が商談でGPを提案する際に使用することを想定してSDGsとの関連性を訴求できるツールを作成することを企画したが内容が具体化せず、実現に至らず。

(e) 大手企業の営業向け施策

大手クライアントにGP採用を働きかけるため大手印刷会社所属の委員が、自社ですでに受注している案件のうちGP工場で製造しており用紙等の要件を満たすものをピックアップし、担当営業を通じてGP採用を働きかけてもらった結果、以下の実績が得られた。

- ・ DNP「大人の休日倶楽部」(ジャーナル東日本企画発行の会員誌) 100万部/月
- ・ TOPPAN CORPORATE COMMUNICATION BOOK(サントリーホールディングス)4万部

■GP 資機材検討ワーキンググループ

(5/16,6/27,7/25,8/9,9/29,11/13,12/5,1/31,2/5 計9回開催)

GP資機材WGとしての開催はケミカル分科会は5回、ハード・ソフト分科会は4回実施。

基準改定については、労働安全衛生法の改正に伴い、ケミカル製品のGP資機材認定におけるグリーン基準及び達成点数等の改定認定基準改定を行った。①洗浄剤②プレートクリーナー③含浸型洗浄布④エッチ液⑤製版薬品

2023年12月～2024年1月にかけて登録メーカー54社及び未登録メーカー19社に対してGP資機材制度に関するアンケートを実施。登録メーカー21社、未登録メーカー1社から回答あり(資料No. 3-6)。今後の制度見直しの際の資料に活用する。

3 基盤構築事業活動

1. 知的財産部会

| 部会名 (分科会) | 開催回数 | 実施内容 |
|-----------|------|--|
| 知的財産部会 | 9回 | <ul style="list-style-type: none"> ・機関誌「JFPI REPORT」に連載する知財啓発記事の新規連載企画検討及び連載 ・各省庁の知財関連動向の共有 ・パブコメ対応 等 |

知財部会は、タイムリーなテーマの抽出や業界としての課題の調査研究に取り組み、解決に向けた提案活動を進めている。知的財産権に関するトラブル・疑問や注意点に関する討議の成果を機関誌「JFPI REPORT」等へ掲載し印刷の日常業務に役立てている。また政府・行政省庁の知財関連意見募集に関する情報を収集し、意見提出の要否を検討した。(部会名簿 P. 40)

1)日印産連機関誌「JFPI REPORT」及び各団体機関誌による知的財産権問題の啓蒙活動

2023年度は、知的財産権に関するトラブルの未然防止を主眼として、印刷の営業や企画の業務に欠かせない知的財産権に関わる基本的な知識や考え方、注意点等を記載した「知ってよかった! 知的財産あるある」を「JFPI REPORT」に4回連載した。



- Vol.184 (2023年7月号) 第4回 「これと同じもの」には要注意!
- Vol.185 (2023年10月号) 第5回 制作委託したイラスト等を異なる媒体に利用して大丈夫?
- Vol.186 (2024年1月号) 第6回 著作権は誰に? 商品写真を使う際の注意点
- Vol.187 (2024年4月号) 第7回 写真のトリミングをしても大丈夫?

2) 文化庁、特許庁等の政府関連の知的財産権動向、及び著作権関連動向の情報共有

- ・毎回の知的財産部会で文化庁、特許庁関連の法案動向などを中心に報告。特に重要な動向については、「主要トピック」として、重点的な解説を行い、注意喚起を行った。2023年度はAIに関わる著作権の在り方に関する法整備の動向が多く報告された。

3) 政府、行政官庁への対応(パブリックコメントによる意見表明、提言、要請事項とりまとめ)

- ・2023年度は、文化庁著作権課がとりまとめた文化審議会著作権分科会法制度小委員会「AIと著作権に関する考え方について」についてのパブリックコメントの提出を2月9日に行った。

4) 知的財産権に関するトラブルの未然防止連載記事の全文公開

- ・前述の「JFPI REPORT」の連載企画「知っててよかった！ 知的財産あるある」及びその前の連載企画「こんなときどうする?! 知的財産アドバイス」はいずれも、「JFPI REPORT」の発行と同時にそれに掲載された見開きページのPDFデータを次号発行まで掲載していた。
- ・これに対して、知財部会の委員から自社内における社員向け知財教育向けに上記2つの連載記事を利用したいとの申し出、及び各団体の会員企業にも社員向け知財教育への利用を促進すべきとの意見もあった。
- ・そこで、知財部会では、2010年から作成してき上記2つ連載記事の合計54タイトル全てについて、見開き形式で記事全文を公開することを検討し、2023年9月初旬に日印産連Web上で公開した。



2. 技術部会

| 部会名 | 開催回数 | 実施内容 |
|--|--------------|---|
| 技術部会 | 0回 | ・技術部会は開催なし。 |
| ■技能五輪運営協議会 ・技能五輪審査委員会 ・技能五輪国内選考会 に向けた準備と実施 | 3回 5回 | ・第47回技能五輪国際大会「印刷」職種の日本代表選手の内選考会に向けた準備と実施 ・実技試験内容、審査項目、審査基準制定 ・教育セミナー ・第一次選考会(筆記試験) ・調色トレーニング ・実機トレーニング ・最終選考会(実技試験) |

(部会名簿 P. 41)

1) 技能五輪国際大会

2024年9月にフランス・リヨンで開催される技能五輪国際大会に向け、「印刷」職種の日本代表選手国内選考会を実施した。

選考会の応募者4社5名に対し、印刷と色彩工学の基礎を教える教育セミナーを開催。

そのセミナー内容を基にした、第一次選考会(筆記試験)を実施。

調色トレーニング(2名参加)、実機トレーニング(5名参加)を行い、審査委員会で決定した内容及び審査項目・基準で実技試験を行った。審査項目には、第一次選考会の結果も含めた。体調不良による棄権者1名を除く4名の順位を決定した。

しかし、2024年9月にフランス・リヨンで開催される技能五輪国際大会における「印刷」職種競技は、応募国数が規定の14に満たず廃止となった。

それに代わる、印刷技能競技国際大会(仮名、2025年3月頃開催予定)がハイデルベルグを中心として検討されている。

3. 情報セキュリティ部会

| 部会名 | 開催回数 | 実施内容 |
|------------|------|---|
| 情報セキュリティ部会 | 1回 | <ul style="list-style-type: none">・大企業から中小企業までを含むサプライチェーン上の弱点を狙ったサイバー攻撃が顕在化・高度化しており、サプライチェーン全体のセキュリティ対策強化が重要になっている。印刷業界の対策を強化するための活動を検討。・情報セキュリティに関する最近の動向とともに、大日本印刷、TOPPAN ホールディングス両社の情報セキュリティ部門からの、情報セキュリティガイドライン作成を含む、情報セキュリティリテラシー向上への取り組みに関する提案内容を共有。 2024年度の活動の軸とすることで合意を得た。 |

(部会名簿 P. 41)

4 広報活動

1. 広報部会

【1】概要

主催 4 コンクール展は、新型コロナウイルスもおさまり、2023 年度中にカレンダー、カタログ、JPC 審査会、造本装幀コンクール全てを終えることとなった。全国カタログ展の展示会はコロナの影響で 2020 年を最後に行われていないが、第 64 回全国カタログ展の入賞作品 45 点を、同カタログ展の実行委員の印刷会社のうち大日本印刷・共同印刷・光村印刷・凸版印刷の 4 社でこの順に巡回展示を 5 月 15 日から 6 月 10 日にかけて行った。各社ではデザイン部門の社員を中心に受賞作品に直接触れていただく機会となった。また、カレンダー・JPC・造本装幀コンクールについては表彰式を実施することができた。

また海外活動においては、2020 年にムンバイで開催された後、コロナによりリアルでの開催が中止となっていた、WPCF の会議がバンコクにて開催された。(部会名簿 p. 41)

【2】主な実施内容

(1) WPCF2023.9 月 世界印刷会議

WPCF は、World Printing Communication Forum の略で、世界印刷・コミュニケーションフォーラム (WPCF) は、世界の主要な多国籍および各国の印刷協会が、世界の印刷産業の発展と繁栄を促進するために協力するプラットフォーム。

2024 年 3 月末時点の所属メンバーは以下の通り。米国 PIA、欧州 Intergraf、スリランカ SLAP、中国 PTAC、香港 HKPA、インド AIFMP、韓国 KPA、ネパール FNPA、日本 JFPI そして南アフリカが 11 月末に加わり、全部で 10 か国となった。

主な活動として、年 1 回の会合を通じて各国の印刷業界の情報交換を行い、Economic Indicator (印刷市場動向) を提出し、各国から各種発表をおこなっている。

今回バンコクでのプログラムの中の WPCF Forum 2023 においては、

World Print and Communication Forum Suggested topic

"持続可能性の追求と印刷・包装業界が直面する課題"と題されたフォーラムでは各国の代表による講演が行われた。WPCF からは、カーボンフットプリントをテーマに講演を行った。

今回のバンコク会議への参加組織

All India Federation of Master Printers, President WPCF

Japan Federation of Printing Industries

Hong Kong Printers Association

Federation of Nepal Printers' Association

Korean Printers Association

Intergraf (欧州印刷連合)



(PACKPRINT INTERNATIONAL & CorruTec
ASIA2023 オープニング)



(WPCF 各国個別会議)

(2) 2023 年「9 月印刷の月／印刷文化典」記念式典の開催

開催概要 日時：2023 年 9 月 13 日(水) 午後 1 時 30 分～午後 5 時 45 分

場所：ホテルニューオータニ「鶴の間」

- 講演会 「町工場の星、ダイヤ精機(株)代表取締役 諏訪貴子氏に学ぶ新経営改革」
- 記念式典
 - ・ 日印産連表彰 (印刷文化賞、印刷功労賞、印刷振興賞、特別賞)
 - ・ 第 21 回印刷産業環境優良工場表彰
- 懇親会



講師の諏訪貴子氏



印刷文化賞受賞の諸氏

(3) 主催 4 コンクールの開催

1) 開催概要

| | 第75回 全国カレンダー展 | 第65回 全国カタログ展 | 第63回 ジャパン パッケージング コンペティション | 第56回 造本装幀コンクール |
|-----------|--|--|---|--|
| 主催 | (一社)日本印刷産業連合会 産経新聞社 | (一社)日本印刷産業連合会 産経新聞社 | (一社)日本印刷産業連合会 | (一社)日本書籍出版協会 (一社)日本印刷産業連合会 |
| 後援 | 経済産業省 文部科学省 (独)国立印刷局 日本商工会議所 日本製紙連合会 (社)日本マーケティング協会 全国中小企業団体中央会 (公社)日本グラフィック デザイン協会 (一社)日本カレンダー暦 文化振興協会 協賛：全国カレンダー出版協 同組合連合会 | 経済産業省 文部科学省 (独)国立印刷局 日本商工会議所 日本製紙連合会 (公社)日本マーケティング協会 全国中小企業団体中央会 (公社)日本グラフィックデ ザイン協会 | 経済産業省 (公社)日本パッケージデザイン協会 (公社)日本包装技術協会 (公社)日本マーケティング協会 (一社)日本プロモーション・マーケ ティング協会 日本百貨店協会 協賛：平和紙業株 | 文部科学省 経済産業省 東京都 (公社)日本図書館協会 (公社)読書推進運動協議会 日本製紙連合会 (一財)出版文化産業振興財団 協賛：(一財)日本出版クラブ |
| 会期・ 開場 | 展示会・チャリティ販売実施 日時：2024年1月29日～2月2日 場所：東京サンケイビル 2月20日～29日 場所：平和紙業ペーパーボイス 大阪 | 実行委員社巡回展示（大日 本印刷・光村印刷・共同 印刷・TOPPAN）： 2024年 4月16日～6月10日 | 調整中 | 展示会 日時：2023年9月～11月 会場：神保町出版クラブ |
| 審査 表彰式 | 2023年12月5～6日 | 2024年3月5日 | 2024年2月16日 | 2023年5月23日 |
| 応募数 | 計 439点 | 計 247点 | 計 116点 | 計 315点 |



第56回造本装幀コンクール表彰式



第75回全国カレンダー展審査会

2) 2023 年度主催コンクール／受賞作品数

| | 授賞名 (順不同) | カレンダー | ポスター | JPC | 造本装幀 |
|----|----------------------|-------|------|-----|------|
| 0 | 内閣総理大臣賞 ¹ | - | | | |
| 1 | 経済産業大臣賞 | 3 | 2 | 2 | 1 |
| 2 | 文部科学大臣賞 | 3 | 2 | | 1 |
| 3 | 経済産業省製造産業局長賞 | | | 2 | |
| 4 | 経済産業省商務情報政策局長賞 | 4 | 4 | 3 | |
| 5 | 東京都知事賞 | | | | 1 |
| 6 | 国立印刷局理事長賞 | 3 | 2 | | |
| 7 | 日本商工会議所会頭賞 | 3 | 2 | | |
| 8 | 日本製紙連合会賞 | 3 | 2 | | 1 |
| 9 | 日本マーケティング協会賞 | 3 | 2 | 1 | |
| 10 | 全国中小企業団体中央会会長賞 | 3 | 2 | | |
| 11 | 日本グラフィックデザイン協会賞 | 3 | 2 | | |
| 12 | 日本カレンダー暦文化振興協会理事長賞 | 3 | | | |
| 13 | 日本パッケージデザイン協会 | | | 1 | |
| 14 | 日本包装技術協会賞 | | | 1 | |
| 15 | 日本プロモーション・マーケティング協会賞 | | | 1 | |
| 16 | 日本百貨店協会賞 | | | 1 | |
| 17 | 日本図書館協会賞 | | | | 1 |
| 18 | 出版文化国際交流賞 | | | | 1 |
| 19 | 読書推進運動協議会賞 | | | | 1 |
| 20 | 出版文化産業振興財団賞 | | | | |
| 21 | 審査員特別賞 | 7 | 4 | | |
| 22 | 審査員奨励 | | | | 3 |

¹ カレンダー展での内閣総理大臣賞は5年毎に選出。今回2023年は内閣総理大臣賞該当年度であったが、授与のための基準が厳しくなり、応募数が毎年減少している現状において内閣総理大臣賞を授与できる状況ではないと判断され、今回は授与されなかった。JPCは経済産業大臣賞が、造本装幀コンクールは経済産業大臣賞・文部科学大臣賞・東京都知事賞が最高賞

| | | | | | | |
|----|-------------------|------------|------------|------------|--|------------|
| 23 | 日本書籍出版協会理事長賞（主催者） | | | | | 6 |
| 24 | 日本印刷産業連合会会長賞（主催者） | 3 | 2 | 5 | | 6 |
| 25 | 産経新聞社賞（主催者） | 3 | 2 | | | |
| 26 | 部門賞 | 42 | 26 | 17 | | |
| 27 | 奨励賞 | 22 | 15 | | | |
| | 受賞作品数 | 69 | 47 | 34 | | 22 |
| | 応募作品数 | 439 | 247 | 116 | | 315 |

3) 応募数の推移（8年間の応募作品数掲載）

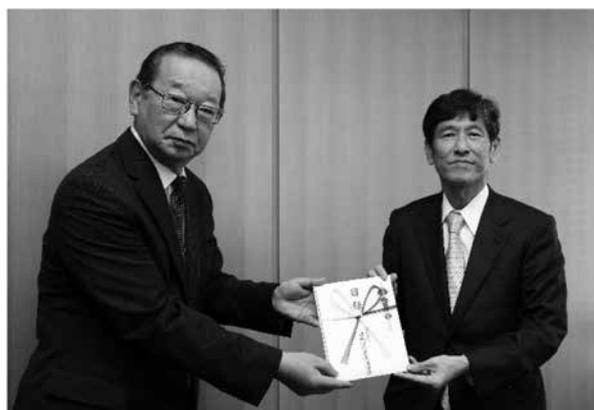
| | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全国カレンダー展 | 604 | 586 | 584 | 522 | 443 | 446 | 455 | 439 |
| 全国カタログ展 | 402 | 373 | 422 | 324 | 277 | 269 | 226 | 247 |
| J P C | 160 | 163 | 182 | 194 | 160 | 133 | 157 | 116 |
| 造本装幀コンクール | 332 | 328 | 325 | 267 | - | 461 | 347 | 315 |

4) 特記事項

●印刷博物館 P&P ギャラリーで2023年9月30日～12月3日の日程で『現代日本のパッケージ2023』が開催され、第62回ジャパンパッケージングコンペティションの受賞作品のほか、「日本パッケージデザイン大賞2023」と「2023日本パッケージデザインインコンテスト」の作品も展示された。



●「第75回全国カレンダー展」でのチャリティカレンダーの販売金10万9千円と日印産連からの寄付金を合わせた30万円を、国内外の心臓病の子供を救う「あけみちゃん基金」（産経新聞社 提唱）に寄付した。寄付金は2024年3月22日に、産経新聞社本社にて北島義斉会長から産経新聞社の近藤哲司社長に寄託された。（右：「明美ちゃん基金」の目録を産経新聞社の近藤哲司社長（左）に手渡す北島会長）。



(4) その他の広報関連活動

1) 機関誌「JFPI REPORT」の発行

機関誌「JFPI REPORT」を年度4回、各2,600部作成して配布。

- 第 183 号 (2023 年 4 月号) 28 頁 発行日: 4 月 28 日
* 「じゃぱにうむ 2023」-印刷産業の地方創生事業事例発表会-
- 第 184 号 (2023 年 7 月号) 36 頁 発行日: 7 月 19 日
* 第 38 回定時総会「日印産連グランドデザイン」再構築プロジェクト本格始動へ
- 第 185 号 (2023 年 10 月号) 44 頁 発行日: 10 月 27 日
* 「2023 年 9 月印刷の月 印刷文化典」記念式典
- 第 186 号 (2024 年 1 月号) 40 頁 発行日: 1 月 30 日
* 年頭所感 2024 年
* 2024 年新年交歓会

2) マスコミ懇談会／記者会見の開催

□マスコミ懇談会

- ① 2023 年 8 月 23 日 於: 日本印刷産業連合会会議室
- ② 2023 年 12 月 13 日 於: 日本印刷産業連合会会議室

3) 広報部会開催日

第 1 回 2023 年 11 月 10 日(金) 於: 日本印刷産業連合会会議室 (ZOOM 併用)

2. 情報共有プラットフォーム構築 WG

会員 10 団体及び地区協・県工組・会員企業間の情報伝達・意見集約業務のデジタル化を推進し、10 団体事務局の業務負荷軽減と有益かつタイムリーな情報発信・共有の実現を目的に、会員 10 団体の事務局長で構成する部会を発足した。

現状、推進部会のメンバーをアカウントにしたサイボウズによって日印産連から情報発信しながら、今後の運用方法について意見交換を行った。それらを踏まえ、10 団体事務局から地区協や地区工組・会員各社とデータ共有ができるシステム構築に着手した。

3. 市場動向調査・発信 事務局活動

印刷産業に関するデータ及び関連資機材データ(経済産業省行政当局発表資料・各種業界団体などの関連データ)の収集並びに分析を行い、事務局で次のような情報発信を行った。

1)印刷市場動向の情報発信

2020 年度から印刷市場動向の情報発信を「印刷業の業界代表団体が果たすべき基本的な役割として、多様なステークホルダーに対して、印刷業界の過去からの実績並びに現時点での業況を正確に伝えるという説明責任を果たすためのツールとして、印刷業界及び関連する資機材、主要需要先の業況を定期的に公表するためのもの」と定義し直し、日印産連 Web サイト上に、誰でもアクセスできる形式で次のような市場動向レポートを発行・公開している。

2023 年度は、2022 年度に引き続き、月報「印刷産業 Monthly Report」、四半期報「印刷産業 Quarterly Report」と合わせ、年報「印刷産業 Annually Report」をそれぞれ定期的に発行した。

2)定期的な情報発信

■「印刷産業 Monthly Report」(月報)

・表紙込み 39 ページ、経済・市場動向、印刷業界動向、インキ業界動向、印刷機械業界動

- 向、用紙・フィルム業界動向等全 33 項目を掲載。
- ・前年同月の実績を含め 13 ヶ月分の表組に、主要な項目にはグラフを併載。
- ・サマリーコメント掲載(上記の各動向をメインに6点、月単位でコメントをサマリー形式で掲載し、このサマリーだけ閲覧することで、当該月の動向概要の把握が可能)。
- ・毎月最終営業日に日印産連 Web サイトにアップして公開。
- ・その旨、各団体専務理事、事務局長宛に連絡、所属会員企業向けの情報展開を依頼。



■「印刷産業 Quarterly Report」(四半期報)

- ・表紙込み 50 ページ、経済・市場動向、印刷業界動向、インキ業界動向、印刷機械業界動向、用紙・フィルム業界動向等全 43 項目を掲載。
- ・過去4年の年合計のほか、直近 2 年の四半期実績を比較して対照可能。
- ・主要な項目には、グラフとコメントを掲載。
- ・6 月、9 月、12 月、3 月の月初に日印産連 Web サイトにアップして公開。



■「印刷産業 Annually Report」(年報)

- ・印刷業、関連資機材及び印刷業の得意先市場等の動向を各省庁やその他各種団体等が発表するデータを元に、年度推移をグラフ化し、年度に1回、年報として発行している。
- ・今回は、従前の「工業統計調査」に代わって実施された総務省・経済産業省「経済構造実態調査」で集計された数値を基に、年度推移のとりまとめを行い Vol.3 として 2024 年 3 月 18 日に発行した。(次年度以後も 3 月中旬に発行予定)
- ・この「印刷産業 Annually Report」の PDF データを日印産連 Web サイトの「印刷市場の動向」の「年次動向」に掲載、無償での閲覧、ダウンロードが可能な状態にして公開している。



5 渉外活動

【1】 概要

価格転嫁や過剰品質等の業界課題や人材獲得、事業再構築、新市場開拓など各団体が抱えるテーマ毎に、行政やターゲットクライアント業界、関連団体等に対して、情報収集・発信、交渉、連携を推進する目的で、今年度から新たに「渉外活動」として分類された。

【2】 主な実施内容

10 団体会員各社が抱える課題の一つである、事業や技術を継承できる人材の育成や確保は各社単独では難しく、団体としての対応も求められている。日印産連では印刷専門の教育団体である学校法人日本プリンティングアカデミー (JPA) と連携し、今後業界として人材育成に取り組むことを目的に 2024 年 2 月 21 日に同校を訪問し、意見交換を行った。

6 顕彰委員会

【1】概 要

本委員会は、「日印産連表彰選考委員会」「印刷産業環境優良工場選考委員会」「GP 環境大賞等選考委員会」の小委員会を招集し、選考を委嘱する委員会である。(委員会名簿 P.42)

| 委員会名 | 開催回数 | 実施内容 |
|-------------------------|------|---|
| 顕彰委員会 (ステアリング・コミッティ) | 3回 | *日印産連表彰 *印刷産業環境優良工場表彰 *GP環境大賞等 (GP環境大賞・GP マーク普及大賞・GP資機材環境大賞) |
| ① 日印産連表彰選考委員会 | | 1回 |
| ② 印刷産業環境優良工場表彰選考委員会 | | 1回 |
| ③ 印刷産業環境優良工場表彰審査委員会 | | 7回 |
| ④ GP環境大賞等選考委員会 | | 1回 |

【2】主な実施内容

- (1) 日印産連表彰選考委員会 開催日：7/26
- (2) 印刷産業環境優良工場表彰選考委員会 開催日：7/19
- (3) 印刷産業環境優良工場表彰審査委員会 開催日：10/28,11/30,1/17,2/16,3/14,5/26,7/5
- (4) GP環境大賞等選考委員会 開催日：7/19

【3】2023年度第21回印刷産業環境優良工場表彰

(選考委員会開催：7/19 計1回)

第21回を迎えた印刷産業環境優良工場表彰は、一般部門、小規模事業所部門合計36工場からの応募があった。各応募工場においては、この3年間の新型コロナウイルス禍により工場運営に大きな影響を受ける中、環境対応については滞ることなく活動を推進し、レベルアップが図られてきている。

受賞工場の特徴としては、世界的な気候変動問題への取組みに対する関心の高まりを受け、地球温暖化防止に寄与するために自社工場のCO₂排出量の抑制低減として「再生可能エネルギーの導入」、「各種の木目細かい省エネ活動」や「環境に配慮した印刷資材の採用」を積極的に活用されていることが挙げられる。また、廃プラ問題への対応として資源の有効活用とリサイクルに焦点を当てた活動が従来以上に進められている点など、地球環境問題への強い意識を反映しての活動として高く評価できる。さらに、SDGsの目標達成に向けて、従業員全員が自身の工場や製品で何ができるかを考え行動しており、また自工場の経験やノウハウを広く発信することで地域全体でより高いレベルの活動に進もうとする

姿勢が注目される。このような地域の環境問題への参画、社会貢献活動など、自主的な取り組みを行って成果を上げている事例は、今後水平展開が可能なモデルとしてより広く活用されることが期待される。

これら応募工場に対して厳正なる審査を行い各賞候補工場を選考し、理事会の承認を得て、9月13日に行われた「9月印刷の月」記念式典で表彰した。（審査委員会名簿P. 42）



経済産業大臣賞 (株) 研文社 尼崎工場

| 賞名 | 企業名 | | 応募工場 |
|--------------------|-----|--------------------|------------|
| 経済産業大臣賞 | | (株) 研文社 | 尼崎工場 |
| 経済産業省 商務情報政策局長賞 | | (該当工場無し) | |
| 日本印刷産業連合会 会長賞 | | 佐川印刷 (株) | 日野工場 |
| | | (株) スマートグラフィックス | 戸田工場 |
| | | (株) 丸信 | 本社・山川工場 |
| 日本印刷産業連合会 特別賞 | | (該当工場無し) | |
| 日本印刷産業連合会 奨励賞 | | (株) 木元省美堂 | 戸田工場 |
| | | 福博総合印刷 (株) | 新宮工場 |
| | | (株) プリプレス・センター | PPC ファクトリー |
| | | 丸正印刷 (株) | 本社工場 |
| | | (株) ショウエイ | |
| | | (株) IL ファーマパッケージング | 栃木工場 |
| | ※ | (株) 常川製本 | 戸田工場 |
| | ※ | プリントス (株) | |

※小規模事業所部門

【4】2024年度第22回印刷産業環境優良工場表彰の活動

来年度の2024年度印刷産業環境優良工場表彰の開催を休止することとした。日印産連では、印刷産業界における各企業の環境問題に対する取り組みを促進するとともに、印刷工場

の環境改善及び印刷企業に対する社会の一層の支持・理解を獲得することを目的に、2002年度から表彰制度を継続実施してきたが、制度開始から20年を経て、近年では表彰内容や運用面で課題や要望がでてきており、より効果的な制度を構築するための見直しが必要であるとの認識に至った。そのため、環境優良工場表彰制度のあり方、制度内容等抜本的な見直しを行うこととした。

7 委員会・部会名簿

【1】ステアリング・コミッティ(運営委員会) (計23名、敬称略、◎は委員長)

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|------------|----------|--------|--------------|
| ◎ | 印刷工業会 | 副会長 | 堆 誠一郎 | 宝印刷(株) |
| | 印刷工業会 | 副会長 | 佐藤 裕芳 | (株)千代田グラフィヤ |
| | 印刷工業会 | 理事 | 岩岡 正哲 | 岩岡印刷工業(株) |
| | 印刷工業会 | 専務理事 | 飯島 由紀 | 印刷工業会 |
| | 全印工連 | 会長 | 滝澤 光正 | 滝澤新聞印刷(株) |
| | 全印工連 | 副会長 | 瀬田 章弘 | 弘和印刷(株) |
| | 全印工連 | 専務理事 | 池尻 淳一 | 全印工連 |
| | フォーム工連 | 会長 | 小谷 敬二 | (株)イトー |
| | フォーム工連 | 専務理事 | 大平 直木 | フォーム工連 |
| | ジャグラー | 会長 | 岡本 泰 | (株)クイックス |
| | ジャグラー | 専務理事 | 田中 良平 | ジャグラー |
| | 全日本製本 | 会長 | 田中 真文 | (株)田中紙工 |
| | 全日本製本 | 副会長兼専務理事 | 本間 敏弘 | 本間製本(株) |
| | 全日本シール | 会長 | 田中 祐 | 山王テックアーツ(株) |
| | 全日本シール | 専務理事 | 片桐 敬喜 | 全日本シール |
| | 全国グラフィア | 理事長 | 田口 薫 | 大日本バックエージ(株) |
| | 全国グラフィア | 専務理事 | 袖山 高明 | 全国グラフィア |
| | GCJ | 会長 | 錦山 慎太郎 | (株)共栄メディア |
| | GCJ | 専務理事 | 佐々木 幸太 | 東京平版(株) |
| | スクリーン・デジタル | 会長 | 内藤 正和 | 内藤プロセス(株) |
| | スクリーン・デジタル | 専務理事 | 宮坂 次郎 | (株)新興グラント社 |
| | 全日本光沢 | 会長 | 堀 知文 | 丸栄(有) |
| | 全日本光沢 | 専務理事 | 長谷川 太一 | (有)長谷川産業 |

【2】グランドデザイン 2030 再構築プロジェクト (計16名、敬称略)

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|--------|------|-------|-----------|
| | 印刷工業会 | 専務理事 | 飯島 由紀 | 印刷工業会 |
| | 印刷工業会 | 理事 | 岩岡 正哲 | 岩岡印刷工業(株) |
| | 全印工連 | 専務理事 | 池尻 淳一 | 全印工連 |
| | フォーム工連 | 専務理事 | 大平 直木 | フォーム工連 |

| | | | | |
|--|------------|------|--------|--------------|
| | ジャグラー | 専務理事 | 田中 良平 | ジャグラー |
| | ジャグラー | 理事 | 笹井 靖夫 | 共立速記印刷(株) |
| | 全日本製本 | 理事 | 井上 正 | 和光堂(株) |
| | 全日本シール | 会長 | 田中 祐 | 山王テクノアート(株) |
| | 全日本シール | 専務理事 | 片桐 敬喜 | 全日本シール |
| | 全国グラフィア | 専務理事 | 袖山 高明 | 全国グラフィア |
| | 全国グラフィア | 理事 | 吉原 宗彦 | 東京加工紙(株) |
| | GCJ | 専務理事 | 佐々木 幸太 | 東京平版(株) |
| | GCJ | | 小倉 健 | ビケングラフィック(株) |
| | スクリーン・デジタル | 専務理事 | 宮坂 次郎 | (株)新興ランド社 |
| | スクリーン・デジタル | 理事 | 野田 哲也 | 太美工芸(株) |
| | 全日本光沢 | 会長 | 堀 知文 | 丸栄(有) |

【3】コンプライアンス推進部会（計13名、敬称略）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|------------|------|--------|--------------------|
| | 印刷工業会 | | 武鐘 智之 | 大日本印刷(株) |
| | 印刷工業会 | | 小林 裕介 | TOPPAN ホールディングス(株) |
| | 印刷工業会 | | 平塚 晶子 | 共同印刷(株) |
| | 印刷工業会 | 専務理事 | 飯島 由紀 | |
| | 全印工連 | 常務理事 | 田島 義之 | (株)久栄社 |
| | フォーム工連 | 専務理事 | 大平 直木 | |
| | ジャグラー | 専務理事 | 田中 良平 | |
| | 全日本製本 | 理事 | 藤田 裕二 | 藤田製本(株) |
| | 全日本シール | 専務理事 | 片桐 敬喜 | |
| | 全国グラフィア | 理事 | 諸石 武士 | 大日本パッケージ(株) |
| | GCJ | 専務理事 | 佐々木 幸太 | 東京平版(株) |
| | スクリーン・デジタル | 副会長 | 熊沢 豊 | 熊沢印刷工芸(株) |
| | 全日本光沢 | 専務理事 | 長谷川 太一 | (有)長谷川産業 |

【4】独禁法遵守WG（計5名、敬称略、◎ は部会長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|--------|------|-------|--------------------|
| | 印刷工業会 | | 飯島 久幸 | 大日本印刷(株) |
| | 印刷工業会 | | 西川 貴祥 | TOPPAN ホールディングス(株) |
| | 印刷工業会 | | 柳沼 香織 | TOPPAN ホールディングス(株) |
| ◎ | 印刷工業会 | | 櫻川 篤史 | 共同印刷(株) |
| | フォーム工連 | | 大塚 茂弥 | TOPPAN エッジ(株) |

【5】労働安全衛生部会（計 12 名、敬称略、◎ は部会長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|------------|------|-------|----------------|
| ◎ | 印刷工業会 | | 秋道 高志 | 大日本印刷(株) |
| | 印刷工業会 | | 矢野 優 | TOPPAN(株) |
| | 印刷工業会 | | 鈴木 兆麿 | 共同印刷(株) |
| | 全印工連 | 専務理事 | 池尻 淳一 | 全日本印刷工業組合連合会 |
| | フォーム工連 | | 大宮 健 | 光ビジュアルフォーム(株) |
| | ジャグラー | 専務理事 | 田中 良平 | ジャグラー |
| | 全日本製本 | 事務局長 | 磯邊 淳 | 全日本製本工業組合連合会 |
| | 全日本シール | | 本間 敏道 | 東京都ラベル印刷協同組合 |
| | 全国グラフィア | 専務理事 | 袖山 高明 | 全国グラフィア協同組合連合会 |
| | GCJ | 常務理事 | 田中 淳 | (有)旭プレス製版 |
| | スクリーン・デジタル | | 嶋 信介 | 八欧産業(株) |
| | 全日本光沢 | 副会長 | 鶴田 和也 | 宏和樹脂工業(株) |

【6】環境マネジメント部会（計 14 名、敬称略、◎ は部会長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|------------|---------|--------|--------------------|
| ◎ | 印刷工業会 | | 菅藤 純平 | 大日本印刷(株) |
| | 印刷工業会 | | 浅川 浩 | TOPPAN ホールディングス(株) |
| | 印刷工業会 | | 戸谷 泰之 | 共同印刷(株) |
| | 印刷工業会 | 事業部長 | 古田 晴子 | 印刷工業会 |
| | 全印工連 | 常務理事 | 白橋 明夫 | (株)白橋 |
| | フォーム工連 | | 堀 正樹 | 小林クリエイト(株) |
| | ジャグラー | 東京・城東支部 | 菅野 潔 | (株)興栄社 |
| | ジャグラー | 専務理事 | 田中 良平 | ジャグラー |
| | 全日本製本 | 理事 | 小木 忠之 | 小澤製本(株) |
| | 全日本シール | | 本間 敏道 | 東京都ラベル印刷協同組合 |
| | 全国グラフィア | 副会長 | 安永 研二 | 東包印刷(株) |
| | GCJ | 副会長 | 松浦 睦桐 | (株)ロイヤル企画 |
| | スクリーン・デジタル | 監事 | 宮本 武紀 | (株)太陽堂成晃社 |
| | 全日本光沢 | 理事 | 長谷川 広重 | (株)日本樹脂工業 |

【7】グリーンプリンティング推進部会（計 19 名、敬称略、◎ は部会長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|-----------------------|--------------------------------|---------|-------|--------------------|
| 制度 検討 WG 座 長 | 印刷工業会 | | 高橋 拓 | 大日本印刷(株) |
| | 印刷工業会 | | 堀田 幸一 | TOPPAN ホールディングス(株) |
| | 印刷工業会 | | 横田 恒 | 共同印刷(株) |
| | 印刷工業会 | | 富山 人士 | 宝印刷(株) |
| | 印刷工業会 | 業務部長 | 古田 晴子 | 印刷工業会 |
| | 全印工連 | 常務理事 | 小島 武也 | (株)武揚堂 |
| | フォーム工連 | 専務理事 | 大平 直木 | フォーム工連 |
| ◎ | ジャグラー | 東京・城東支部 | 菅野 潔 | (株)興栄社 |
| | 全日本製本 | 理事 | 小木 忠之 | 小澤製本(株) |
| | 全日本シール | | 平野 衛 | (株)日本ラベル |
| 周知 活動 WG 座 長 | 全国グラフィア | 理事 | 山下 雅稔 | (株)巧芸社 |
| | 全国グラフィア | 幹事 | 吉原 宗彦 | 東京加工紙(株) |
| | GCJ | 副会長 | 田島 義之 | (株)セントラルプロフィックス |
| | スクリーン・デジタル | 副会長 | 吉見 正彦 | マルワ工業(株) |
| | 全日本光沢 | 監事 | 吉池 法子 | (有)友邦社 |
| | 環境保護印刷推 進協議会 (E3PA) | | 松浦 睦桐 | (株)ロイヤル企画 |
| | (一社)日本W P A (日本水な し印刷協会) | | 奥 継雄 | (株)文星閣 |
| オブ ザー バー | ジャグラー | 専務理事 | 田中 良平 | ジャグラー |

【8】知的財産部会（計 11 名、敬称略、◎は部会長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|--------|------|--------|---------------|
| ◎ | 印刷工業会 | | 後藤 直樹 | 大日本印刷(株) |
| | 印刷工業会 | | 小野 武志 | 大日本印刷(株) |
| | 印刷工業会 | | 大野 郁英 | TOPPAN(株) |
| | 印刷工業会 | | 小林 拓矢 | TOPPAN(株) |
| | 印刷工業会 | | 近藤 慎一 | 共同印刷(株) |
| | 印刷工業会 | | 間島 真奈美 | 共同印刷(株) |
| | 全印工連 | | 加賀 一史 | 全印工連 |
| | フォーム工連 | | 木下 和之 | TOPPAN エッジ(株) |

| | | | | |
|--|--------|------|-------|---------------|
| | フォーム工連 | | 藤城 明彦 | TOPPAN エッジ(株) |
| | ジャグラー | 専務理事 | 田中 良平 | ジャグラー |
| | GCJ | 常務理事 | 白倉 和昌 | (株)マル・ヒ |

【9】技術部会（敬称略、◎ は部会長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|------|------|-------|---------|
| ◎ | 全印工連 | 常務理事 | 福田 浩志 | (株)ウエマツ |

【10】技能五輪運営協議会（計 6 名、敬称略、◎ は部会長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|-------|------|-------|-----------------------|
| ◎ | | | 田中 剛 | ハイデルベルグ・ジャパン(株) |
| | | | 富田 俊一 | (株)小森コーポレーション |
| | | | 木村 宏美 | 東京都中央・城北職業能力開発センター |
| | | | 澁谷 俊治 | ハイデルベルグ・ジャパン(株) |
| | 印刷工業会 | | 箕輪 雅浩 | TOMOWELL ビジネスパートナー(株) |
| | 全印工連 | | 中島 弘稀 | (株)大丸グラフィックス |

【11】情報セキュリティ部会（計 6 名、敬称略、◎ は部会長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|--------|------|-------|--------------------|
| | 印刷工業会 | | 高田 規夫 | 大日本印刷(株) |
| | 印刷工業会 | | 池田 望 | TOPPAN ホールディングス(株) |
| | 印刷工業会 | | 内木 義則 | 共同印刷(株) |
| | 印刷工業会 | 事務局長 | 木嶋 伸夫 | 印刷工業会 |
| | 全印工連 | 常務理事 | 富澤 隆久 | 富沢印刷(株) |
| ◎ | フォーム工連 | | 井上 英俊 | TOPPAN エッジ(株) |

【12】広報部会（計 13 名、敬称略、◎ は部会長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|--------|------|-------|--------------|
| ◎ | 印刷工業会 | | 若林 尚樹 | 大日本印刷(株) |
| | 印刷工業会 | 理事 | 大橋 幸成 | ダイオミウラ(株) |
| | 印刷工業会 | 専務理事 | 飯島 由紀 | 印刷工業会 |
| | 全印工連 | 常務理事 | 浜田 彰 | (株)アチ・イメージング |
| | フォーム工連 | 専務理事 | 大平 直木 | フォーム工連 |
| | ジャグラー | 専務理事 | 田中 良平 | ジャグラー |
| | 全日本製本 | 理事 | 中島 誠一 | (有)中島製本所 |
| | 全日本シール | 専務理事 | 片桐 敬喜 | 全日本シール |

| | | | | |
|--|------------|------|-------|------------|
| | 全国グラフィック | 副会長 | 竹下 晋司 | (株)ダイコー |
| | 全国グラフィック | 副会長 | 石井 純 | (株)多漣堂 |
| | GCJ | 常務理事 | 上田 武彦 | (株)上田写真製版所 |
| | スクリーン・デジタル | 理事 | 吉田 純一 | (株)吉田製作所 |
| | 全日本光沢 | 副会長 | 木村 亨 | 旭紙化工(株) |

【13】顕彰委員会（計10名、敬称略、◎は委員長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----|------------|------|--------|---------------|
| ◎ | 印刷工業会 | 副会長 | 堆 誠一郎 | 宝印刷(株) |
| | 全印工連 | 会長 | 滝澤 光正 | 滝澤新聞印刷(株) |
| | フォーム工連 | 会長 | 小谷 敬二 | (株)イトー |
| | ジャグラー | 会長 | 岡本 泰 | (株)クックス |
| | 全日本製本 | 会長 | 田中 真文 | (株)田中紙工 |
| | 全日本シール | 会長 | 田中 祐 | 山王テクノアーツ(株) |
| | 全国グラフィック | 理事長 | 田口 薫 | 大日本パッケージング(株) |
| | GCJ | 会長 | 錦山 慎太郎 | (株)共栄メディア |
| | スクリーン・デジタル | 会長 | 内藤 正和 | 内藤プロセス(株) |
| | 全日本光沢 | 会長 | 堀 知文 | 丸栄(有) |

【14】第21回印刷産業環境優良工場表彰審査委員会（計16名、敬称略、◎は委員長）

| 区分 | 所属団体 | 団体役職 | 氏名 | 会社名 |
|----------|------------|---------|-------|--------------------|
| 専門 委員 | | | 時枝 隆 | 時枝環境技術事務所 |
| | | | 千本 雅士 | (一社)日本印刷産業連合会 |
| | | 印刷工業会 | 菅藤 純平 | 大日本印刷(株) |
| | | 印刷工業会 | 内藤 清 | TOPPAN ホールディングス(株) |
| | | 印刷工業会 | 関口 信之 | 共同印刷(株) |
| | 印刷工業会 | 業務部長 | 古田 晴子 | 印刷工業会 |
| ◎ | 全印工連 | 参与 | 橋本 唱一 | 文唱堂印刷(株) |
| | 全印工連 | 常務理事 | 小島 武也 | (株)武揚堂 |
| | フォーム工連 | 環境委員会委員 | 因 志信 | (株)イトー |
| | ジャグラー | 専務理事 | 田中 良平 | ジャグラー |
| | 全日本製本 | | 小林 宏慈 | (株)小林断截 |
| | 全日本シール | 理事 | 穴戸 伊助 | 大輪印刷(株) |
| | 全国グラフィック | 幹事 | 橋本 章 | 橋本セロファン印刷(株) |
| | GCJ | | 酒井 公郎 | (株)共栄メディア |
| | スクリーン・デジタル | 副会長 | 近藤 浩 | (株)文化社 |
| | 全日本光沢 | 理事 | 浅野 貴之 | (株)協和テック |